ISSN 0915-1613

年　報　11

平成6年度

1995.3

山梨県埋蔵文化財センター

ISSN 0915-1613

年　報　11

平成6年度

1995. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、今年度で13年目を迎えました。この間、当センターが発掘調査を行ってまいりました遺跡は200件を越え、刊行しました発掘調査報告書も100冊以上となりました。これらの内容は、旧石器時代から近世に至るまでと幅広く、本県の歴史の解明に役立つところ大きいものであったと確信しております。発掘された資料は、「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出しなど、県内外に広く活用され、その内容も年々充実したものとなってまいりました。

本書は1994年度に当埋蔵文化財センターが実施致しました発掘調査および試掘・分布調査の概要と遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は18遺跡の発掘調査と８件の事業にかかわる試掘調査を行いました。この中で、甲府盆地縁辺部に形成された扇状地上の調査として中部横断自動車道と森林と水のプロムナード関連の遺跡があげられます。前者では地表下数mから弥生時代から近世までの遺跡が発見され、中でも十五所遺跡の７基の弥生時代後期の方形周溝墓、大師東丹保遺跡の古墳時代前期の低湿地における微高地上に構築された古墳、宮沢中村遺跡では網代垣状の編み物を杭に挟み込んだ中世の護岸や江戸時代の集落など大変興味深い資料を提供致しました。また、後者関連の遺跡では、平安時代の集落址で多くの墨書土器が検出された狐原遺跡や、全国的にも話題を呼んだ八角形の墳形をもつ経塚古墳の発掘調査が行われました。このほか、縄文時代では、前期後半から中期後半に位置づけられる住居址や土坑を検出した長坂町の酒呑場遺跡、中期の柄鏡型敷石住居址が確認された大月市の大月遺跡や都留市の中谷遺跡などが挙げられます。古墳時代では中道町の岩清水遺跡から直径30mにもおよぶ円形周溝墓が検出されました。さらに、平安時代の大集落である一宮町の北中原遺跡も注目を集めました。また、県指定史跡甲府城や古代官衙・寺院跡詳細分布調査も５年目に入り、大きな成果を上げております。このほか、県内の市町村が実施しました発掘調査においても興味深い遺構や遺物が発見されております。

ここ数年、県内においては年間100件にもおよぶ発掘調査が行われております。開発事業は依然としてその数を増加させ止まるところを知りません。このような状況の中で得られた貴重な資料と引き替えに、多くの遺跡が失われて行くことを余儀なくされております。祖先の残した文化遺産のひとつである遺跡を可能な限り守り未来につなげて行くのが私たちの責務であると確信しております。これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、埋蔵文化財の保存保護をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願い致します。

1995年３月

山梨県埋蔵文化財センター

所長　大塚初重

目　　次

Ⅰ　1994年度の事業概要

1　発掘調査……1
2　整理事業……1
3　発掘調査報告書……1
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可……2
5　調査研究課内研究グループ……4
6　遺跡調査発表会……5
7　山梨の遺跡展’95……6
8　第６回市町村埋蔵文化財専門職員研修会……6
9　調査研究課課内研修会……7
10　海外技術研修員受入れ……7

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要

1　宮沢中村遺跡……8
2　大師東丹保遺跡（Ⅲ区）……10
3　大師東丹保遺跡（Ⅳ区）……12
4　村前東Ａ遺跡（Ⅱａ・Ⅲ区）……14
5　村前東Ａ遺跡（Ⅱｂ・Ⅳ区）……16
6　十五所遺跡……18
7　上野原遺跡……20
8　岩清水遺跡……22
9　経塚古墳……24
10　狐原遺跡……26
11　甲府城跡（県指定史跡）……28
12　日影田遺跡……31
13　北中原遺跡……32
14　古代官衙・寺院跡詳細分布調査……34
15　中谷遺跡……36
16　酒呑場遺跡……38
17　大月遺跡……40
18　米倉山Ｂ遺跡（くちゃあ塚古墳）……42
19　八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査……43
20　桂川流域下水道関連……48

Ⅲ　県内の概況

1　調査の件数と状況……49
　1994年度発掘調査一覧表……51

例　　言

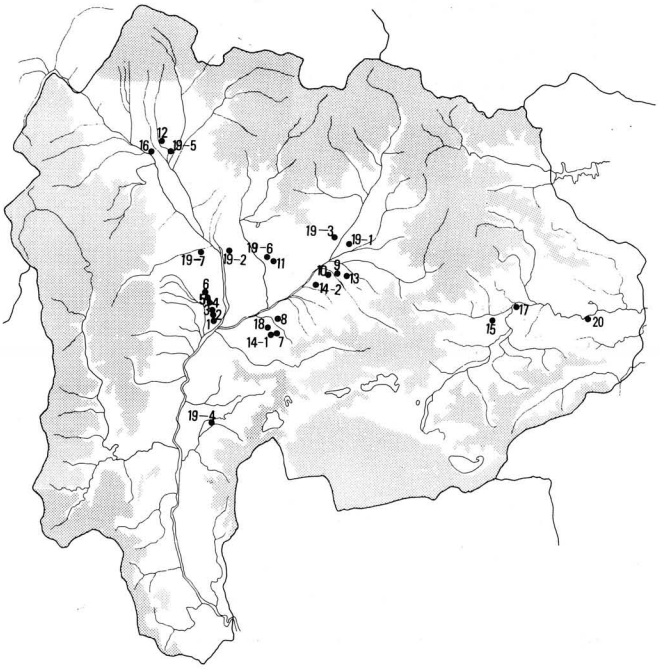
1．本書は、1994年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2．本書の編集は吉岡弘樹、小泉敬が行なった。

3．今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は３月末日現在で集計したものである。

4．第Ⅱ章の発掘調査概要の発掘調査面積の（　）内は調査対象面積である。

5．右の地図は1994年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は第Ⅰ章の遺跡地名表に対応している。



1994年度発掘調査　位置図

職　員　組　織

所長	大塚初重
次長	三科英訓
総務課　課長	三科英訓
埋蔵文化財指導幹	森和敏
調査研究課　課長	田代孝

総務課		
総務担当	副主査	遠藤晋
	主事	久保島宏
	主事	向山美咲
	文書事務員	有泉百合恵
	業務員	久保川一三

調査研究課		
調査第一担当	副主幹・文化財主事	坂本美夫
	主査・文化財主事	小林広和
	副主査・文化財主事	大谷満水
	主任・文化財主事	山本茂樹
	文化財主事	村石眞澄
	文化財主事	野代幸和
	文化財主事	石神孝子
調査第二担当	主査・文化財主事	新津健
	副主査・文化財主事	米田明訓
	文化財主事	松土一志
	文化財主事	小泉敬
	文化財主事	保坂和博
	文化財主事	大庭勝
	文化財主事	小林健二
	文化財主事	田口明子
調査第三担当	副主査・文化財主事	八巻與志夫
	主任・文化財主事	高野政文
	主任・文化財主事	五味信吾
	文化財主事	森原明廣
	文化財主事	柏木秀俊
	文化財主事	宮里学
調査第四担当	副主査・文化財主事	長沢宏昌
	主任・文化財主事	橘田重男
	主任・文化財主事	高野玄明
	文化財主事	吉岡弘樹
	文化財主事	山﨑一良
	文化財主事	高橋みゆき
調査第五担当	副主査・文化財主事	出月洋文
	主任・文化財主事	中山誠二
	主任・文化財主事	澤登正仁
	文化財主事	佐野和規
	文化財主事	小林公治
	文化財主事	三田村美彦

Ⅰ　1994年度の事業概要

1．発掘調査

今年度は19遺跡の発掘調査と９事業にかかわる試掘調査を行なった。調査の原因は、建物建設10、道路建設10、リニア建設１、公園整備５、学術調査１、河川改修１となる。調査は４月下旬から３月中旬まで行なわれ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	宮沢中村遺跡	10	狐原遺跡	18	米倉山Ｂ遺跡
2	大師東丹保遺跡Ⅲ区	11	甲府城跡（県指定史跡）	19－１	三ヶ所遺跡範囲確認試掘調査
3	大師東丹保遺跡Ⅳ区	12	日影田遺跡	19－２	双葉町竜地地内試掘調査
4	村前東Ａ遺跡Ⅰｂ区・Ⅲ区	13	北中原遺跡	19－３	兄川ナウマンゾウ試掘調査
5	村前東Ａ遺跡Ⅱｂ区・Ⅳ区	14－１	古代官衙・寺院跡詳細分布調査（円楽寺）	19－４	国道300号線（下部バイパス）試掘調査
6	十五所遺跡	14－２	古代官衙・寺院跡詳細分布調査（横畑遺跡）	19－５	国道141号線（箕輪バイパス）試掘調査
7	上野原遺跡	15	中谷遺跡	19－６	甲府工業高校（塩部遺跡）試掘調査
8	岩清水遺跡	16	酒呑場遺跡	19－７	八田御勅使南工業団地試掘調査
9	経塚古墳	17	大月遺跡	20	桂川流域下水道関連調査

2．整理事業

今年度は下記の整理を行なった。

No.	遺跡名	発掘年度	事業名	No.	遺跡名	発掘年度	事業名
1	宮沢中村遺跡	1994	一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設	12	上野原遺跡	1994	一般国道358号線拡幅
2	大師東丹保遺跡（Ⅲ区）	1994	一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設	13	甲ツ原遺跡	1989～1993	一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設
3	大師東丹保遺跡（Ⅳ区）	1994	一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設	14	九鬼Ⅱ遺跡	1993	リニア新実験線建設
4	村前東Ａ遺跡（Ⅰｂ・Ⅲ区）	1994	一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設	15	中谷遺跡・揚久保遺跡	1992～1994	リニア新実験線建設
5	村前東Ａ遺跡（Ⅱｂ・Ⅳ区）	1994	一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設	16	米倉山Ｂ遺跡	1991～1994	米倉山ニュータウン整備
6	十五所遺跡	1994	一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設	17	榎田遺跡	1992	ツリータウン千塚団地建設
7	狐原遺跡	1994	森林と水のプロムナード建設	18	唐松遺跡	1992～1993	宇津谷ニュータウン建設
8	経塚古墳	1994	森林と水のプロムナード建設	19	日影田遺跡	1993～1994	県営高根南団地建設
9	甲府城跡（県指定史跡）	1994	舞鶴城公園再整備	20	北中原遺跡	1993～1994	県営一宮団地増設
10	岩清水遺跡	1994	甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園整備	21	西田遺跡	1978	遺跡調査報告書作成
11	古代官衙・寺院跡詳細分布調査	1994	古代官衙・寺院跡詳細分布調査				

3．発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No.	報告書名	No.	報告書名	No.	報告書名
第98集	山梨県指定史跡甲府城Ⅴ	第102集	大師東丹保遺跡２〔概報〕	第106集	山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査
第99集	北中原遺跡	第103集	村前東Ａ遺跡２〔概報〕	第107集	宮の前遺跡
第100集	日影田遺跡	第104集	十五所遺跡〔概報〕	第108集	兄川
第101集	宮沢中村遺跡〔概報〕	第105集	榎田遺跡	第109集	経塚古墳発掘調査及び復原整備

4．収蔵資料の貸し出し及び記載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

番号	貸出期間	申請物件名	申請者	利用目的
1	4．1～3．31	立石遺跡出土石器及び剝片48点	富士吉田市歴史民俗博物館	常設展に展示のため
2	4．21～5．21	甲ツ原遺跡出土縄文土器2点 金の尾遺跡出土弥生土器1点 〃　石鏃8点	櫛形町立豊小学校	社会科授業及び教職員の研修
3	4．27～6．5	天神遺跡出土大珠1点	福井県立博物館	「古代のアクセサリー」展に展示
4	6．20～8．10	岩崎氏館跡出土土器20点	釈迦堂遺跡博物館	「中世の館」展に展示
5	6．22	甲ツ原遺跡出土縄文土器1点 金の尾遺跡出土弥生土器1点	石和町教育委員会	スコレー大学「郷土学習」に展示
6	7．28～9．2	甲ツ原遺跡出土縄文土器1点 安道寺遺跡出土縄文土器1点 〃　有孔鍔付土器1点 一の沢遺跡出土縄文土器2点 金生遺跡出土縄文土器3点 〃　皿形土器2点 〃　台付浅鉢土器1点 〃　注口土器1点 〃　壺形土器1点 〃　瓢箪形土器1点 〃　網代痕付土器片7点 〃　土偶1点	浜松市博物館	「縄文時代の人々のくらし」展に展示
7	9．5～12．10	金生遺跡出土土偶6点 〃　土版1点 〃　石棒1点 〃　石剣・石刀2点 〃　耳飾り6点 〃　勾玉2点 〃　大珠1点 〃　垂飾1点 〃　ミニチュア土器6点	斎宮歴史博物館	「三重県の祭祀遺跡」展に展示
8	7．29～8．12	柳坪遺跡出土縄文土器2点 甲ツ原遺跡出土縄文土器3点	八代町教育委員会	「縄文土器づくり」の見本として
9	9．17～11．30	宮の上遺跡出土縄文土器1点 甲ツ原遺跡出土縄文土器1点 〃　獣面把手付縄文土器1点 天神遺跡出土縄文土器1点 頭無遺跡出土縄文土器2点 柳坪遺跡出土縄文土器1点 上野原遺跡出土縄文土器1点	釈迦堂遺跡博物館	「土器とその文化」展に展示
10	10．20～12．14	大善寺出土経筒（複製品）1点	塩山市教育委員会	「甲州の鎌倉　えんざん」展に展示
11	1．6～2．28	花鳥山遺跡出土炭化物付着土器片1点 大師東丹保遺跡出土漆塗り椀1点 甲ツ原遺跡出土炭化物付着土器1点	塩山土木事務所	複製品製作のため
12	12．23～2．4	安道寺遺跡出土土器1点 一の沢遺跡出土土器1点 獅子之前遺跡出土獣面把手1点	釈迦堂遺跡博物館	「縄文のイノシシ」展に展示のため
13	3．13～3．14	頭無遺跡出土縄文土器1点	NHK静岡放送局	「静岡歴史探検」に収録のため

今年度は以下の掲載許可申請があり許可した。

番号	申請日	申請物件名	申請者	利用目的
1	4．6	一の沢西遺跡出土深鉢形土器2点	株式会社小学館	「原色日本の美術・原始美術」に掲載
2	5．26	獅子之前遺跡出土立像形土偶3点	株式会社至文堂	「日本の美術」に掲載
3	5．25	釈迦堂遺跡土偶集合写真	釈迦堂遺跡博物館	「日本の美術」に掲載
4	6．1	金生遺跡全景	丸善株式会社出版事業部	「MARUZENエンサイクロペディア」に掲載
5	6．1	一の沢西遺跡出土井戸尻式土器1点	雄山閣出版株式会社	「季刊考古学」48号に掲載

6	6．3	甲斐銚子塚古墳出土壺形埴輪１点	株式会社至文堂	「日本の美術」に掲載
7	6．2	上野原遺跡出土井戸尻式土器１点	雄山閣出版株式会社	「季刊考古学」48号に掲載
8	6．15	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真	福音館書店	「たくさんのふしぎ」11月号に掲載
9	6．24	甲斐銚子塚古墳に関する航空写真	株式会社徳間書店	「国指定史跡大観」に掲載
10	7．1	金生遺跡出土土偶５点	斎宮歴史博物館	特別展「三重県の祭祀遺跡」図録に掲載
		金生遺跡出土土板１点	〃	〃
		金生遺跡出土耳飾り２点	〃	〃
		金生遺跡出土石剣・石刀	〃	〃
		金生遺跡出土ミニチュア土器１点	〃	〃
		金生遺跡出土垂飾・勾玉１点	〃	〃
		金生遺跡風景１点	〃	〃
11	6．1	安道寺遺跡出土有孔鍔付土器１点	株式会社東京堂	「縄文時代研究事典」に掲載
		甲ッ原遺跡遺物出土状況１点	〃	〃
12	6．28	二宮遺跡出土環状鏡板付轡１点	朝日新聞社出版局	「なぜ古墳はつくられたか」に掲載
13	7．12	甲府城調査関連１点	株式会社新人物往来社	中世都市研究編「都市空間」に掲載
		須玉町前の山遺跡１点	〃	〃
14	7．22	上の平遺跡航空写真１点	株式会社徳間書店	「国指定史跡大観」に掲載
		上の平遺跡整備後の航空写真１点	〃	〃
		〃　121号方形周溝墓全景１点	〃	〃
		〃　110号方形周溝墓壺形土器１点	〃	〃
		〃　出土土器集合写真１点	〃	〃
		〃　81号方形周溝墓壺棺出土１点	〃	〃
15	7．28	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真１点	朝日新聞出版局	「縄文のこどもたち」に掲載
16	9．1	甲ッ原遺跡出土深鉢形土器１点	釈迦堂遺跡博物館	特別展「土器とその文化」ポスター・パネル
		殿林遺跡出土深鉢形土器１点	〃	〃
17	10．4	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真１点	朝日新聞社編集部	「アサヒグラフ」臨時増刊号に掲載
18	10．14	坂井遺跡出土容器形土偶	株式会社至文堂	「日本の美術」に掲載
19	10．14	大善寺経塚写真６点	塩山市教育委員会	企画展「甲州の鎌倉えんざん」のパネル
		大善寺経塚写真１点	〃	〃
20	11．18	金生遺跡出土中空土偶	北沢図書出版沢田事務所	「ケルトの風にふかれて」に掲載
21	11．21	考古博物館正面	小学館表現研究所	「アミューズメント・カプセル・あ・そ・ぼ」に掲載
		考古博物館展示室	〃	〃
		殿林遺跡出土重文縄文土器	〃	〃
		上の平遺跡出土土器群	〃	〃
22	12．2	金生遺跡石棒出土状況	文芸春秋	「マルコポーロ」２月号に掲載
		金生遺跡出土石棒	〃	〃
23	12．20	大師東丹保遺跡Ⅰ区水田址	塩山土木事務所	フルーツミュージアム展示パネル
		大師東丹保遺跡Ⅱ区桃核出土状況	〃	〃
		花鳥山遺跡出土オコゲ付土器片	〃	〃
		甲ッ原遺跡出土土器	〃	〃
24	12．23	甲ッ原遺跡出土漆塗り彩文土器	全国朝日放送株式会社	「ニュースステーション」に収録
		天神遺跡出土漆塗り彩文土器	〃	〃
25	12．26	殿林遺跡出土縄文土器	甲府市	「広報２月号」に掲載
		考古博物館正面		
26	12．28	殿林遺跡出土縄文土器	読売新聞社甲府支局	「邑からのメッセージ」に掲載
		宮の上遺跡出土縄文土器	〃	〃
		一の沢遺跡出土縄文土器	〃	〃
		一の沢遺跡出土縄文土器展開写真	〃	〃
		安道寺遺跡出土有孔鍔付土器	〃	〃
27	1．23	天神遺跡出土大珠	吉川弘文館	「日本の翡翠」に掲載
28	2．8	安道寺遺跡出土縄文土器	日本航空文化事業センター	1996年度カレンダーに掲載
29	2．22	二の宮遺跡出土須恵器・土師器	鰍沢町	鰍沢町誌に掲載
		小平沢古墳出土銅鏡	〃	〃
		丘の公園第２遺跡出土ナイフ形石器	〃	〃
		二の宮遺跡出土縄文土器	〃	〃
		天神遺跡出土縄文土器	〃	〃
		宮の前遺跡出土縄文土器	〃	〃
		金生遺跡出土縄文土器２点	〃	〃
		向河原遺跡水田跡	〃	〃
		上の平遺跡方形周溝墓群	〃	〃

5．調査研究課内研究グループ

本年度は5部会を設定し、以下のような内容で毎月末日ごとに自主研究を行なった。

縄文部会　縄文部会では、昨年度に引き続き県内出土の縄文土器の集成を行った。この作業は草創期から晩期までの“縄文土器絵引”を作成することを目的としたもので、そのために報告書毎に縄文土器を時期分類しつつ集成を試みたものである。当センター刊行の報告書・紀要・年報掲載資料については既に終了し、現在市町村刊行の報告書について集成中である。集成の方針としては出来る限り完形品を収載することとしているが、県内の特徴として中期に資料が集中し、草創期など完形品が無い時期もあり、それらについてどのような“絵引”を作るか現在検討中である。近いうちに、県内担当者に配布できるものを仕上げる心積もりである。

古墳部会　県内の該期の土器編年は、土師器については部分的前進がみられるものの、須恵器については停滞気味といえる。また双方の編年の接点についても曖昧な部分が存在しているのが現状である。そこで古墳時代全般にわたる土器編年の再検討を試みることにし、県内出土資料の収集を中心に活動を行った。土師器については5世紀のものが稀薄であり、須恵器についても東山南B遺跡出土の樽型瓹を遡るものがなく、依然として5世紀代の編年を試案することが困難である。現在ある資料から双方の時間軸の設定を導き出すことが今後の課題となろう。

中世部会　中世土器は最近の発掘調査によって、その出土量も内容も豊富なものとなっている。平安末期を転換期とする中世土器の出現及びその後の展開は、中世考古学の上で重要な課題となっている。山梨における中世土器の考古学編年の確立をめざして研究テーマとした。すでに報告されている資料の検討から始め、例会を重ねてきた。編年を立てる上で伴出遺物との関係が重要視されるが、特に陶磁器などの生産地年代と消費地年代の差に注意することが指摘されている。現状では地域差が著しいと思われる中世土器の形態や器種を確実に集成する作業の蓄積が必要とされている。引き続き中世土器の編年体系を提起できるよう研究を進めたい。

考古資料教材化部会　昨年までは当センターに文化財主事として赴任した公立の小中学校及び高等学校の教員の自主的研究サークルとして在ったが、今年度は他の部会と同じように、当センターの研究部会に入ることができ、専門の文化財主事も参加した。今年度の活動内容は、以下のとおりである。月一度の開催時に部会員2～4名ずつ、それぞれが関わっている遺跡についてその性格・出土した遺構・遺物等の紹介を主にスライドなどをとおして発表しあった。そしてその場での意見交換を個々人が刺激としながら、発表した考古資料を教材化した。教材化した資料は、資料にまとめあげて、知人や一般の人に公開し指導・助言を受ける予定である。

印刷技術工程研究部会　本部会は、報告書の効率的かつ質的向上をはかることを目的として、今年度から活動を始めた研究部会である。

年度の前半は、『クリエイターのための印刷ガイドブック』（玄光社）を教本として、印刷の流れおよび各工程の作業と留意点について研究発表を行い、その後現行の報告作成の問題点等について検討を行った。これらの検討を踏まえ、考古学の調査報告書を作成する上での基本的事項や留意点を盛り込んだ『報告書印刷の手引き』を作成し、今後の報告書作成を円滑に進めていくマニュアル作りを行った。

6．遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された遺跡調査の内容を一般県民に広く周知するため、山梨県考古学協会と共催で年２回の遺跡調査発表会を実施している。この発表会では、本県の歴史を解明するうえに重要で、かつ最近発掘調査された遺跡の中から特に注目を集め、マスコミ等にも取り上げられた遺跡を中心に行っているものである。また、発表に加え出土遺物や写真等の展示により、発表遺跡以外の紹介も行った。以下、その概要を述べていきたい。

1994年度上半期遺跡調査発表会概要（10月29日　於山梨学院大学　約180名参加）

1．大椚遺跡群　上野原町大椚・八ツ沢地内　［大椚遺跡群調査団：宮沢公雄］

県東部の上野原町に所在する遺跡。縄文時代の陥し穴群が多数発見されている。縄文時代の狩猟を考えるうえで、また山梨県地域と東京・神奈川地域の関係を考えるうえで貴重な遺跡である。

2．金の尾遺跡　敷島町大下条631外［敷島町教育委員会：大嶌正之］

中央自動車道の建設に伴い、'78年度に調査された金の尾遺跡に隣接した地域の調査。弥生時代の方形周溝墓が発見され、うち１基は１辺が15mと周辺地域では大型である。豊富な土器資料にも注目される。

3．腰巻遺跡　須玉町藤田字腰巻［明野村教育委員会：佐野隆］

北巨摩郡地域では珍しい古墳時代後期の集落跡。竪穴住居址が35軒以上も発見されている。カマドや土器も残りが良好であり、山梨県の古墳時代を考えるうえで重要な遺跡である。

4．経塚古墳　一宮町国分字経塚［県埋蔵文化財センター：吉岡弘樹］24頁参照

5．東畑遺跡Ｂ地点　甲府市横根町・桜井町［甲府市教育委員会：伊藤正幸］

甲府市横根に所在する古墳時代から平安時代の集落跡。古墳時代前期の井戸からしゃもじ状木製品などが出土。また、県内最古の金銅仏（観音菩薩立像：白鳳期）が完全な形で出土したことで知られる。

1994年度下半期遺跡調査発表会概要（３月４日　於風土記の丘研修センター　約130名参加）

報告　平成６年度の埋蔵文化財の保護と調査［県教育庁学術文化課：小野正文］

1．社口遺跡　高根町村山北割字社口［高根町教育委員会：雨宮正樹］

縄文時代中期後半の集落遺跡。住居跡29軒の調査をおこない、珍しい翡翠や土製の笛、土鈴が出土した。

2．大月遺跡　大月市大月二丁目［県埋蔵文化財センター：高橋みゆき］40頁参照

3．三井氏館跡（北村）遺跡　長坂町長坂下条字北村［長坂町教育委員会：小宮山隆］

県内で最北端の方形周溝墓群。弥生時代後期から古墳時代初頭につくられ、１号墳では墳丘と埋葬施設が確認された。

4．宮ノ上遺跡　中道町上向山字宮ノ上［中道町教育委員会：林部光］

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけてつくられた方形周溝墓群。中でも埋葬主体部から出土した鉄剣が注目され、隣接する上の平遺跡を含め大規模な墓域となった。

5．宮沢中村遺跡　甲西町宮沢字東宮沢［県埋蔵文化財センター：田口明子］８頁参照

7．山梨の遺跡展　'95

この事業は県立考古博物館と共催して例年実施している。特に発掘調査の概要を速報的に公開・展示することにより、埋もれていた郷土の歴史の一端を広く県民に紹介していくとともに埋蔵文化財に関する関心を高めることをねらいとしている。考古博物館特別展示室を会場に、遺跡単位で時代を追いながら出土遺物、写真を中心に図や絵を用いたり、遺構の復原を行ったり、さまざまな工夫を凝らした展示を行った。今年度は1995年３月19日(日)から４月９日(日)までの会期で兄川のナウマンゾウ、酒呑場遺跡（ヒスイ製垂飾、ヒスイ未製品)、大月遺跡（敷石住居、埋甕、竪果類)、十五所遺跡（方形周溝墓と遺物)、大師東丹保遺跡（低湿地の古墳)、村前東Ａ遺跡（炉の復原)、岩清水遺跡（円形周溝墓と遺物)、経塚古墳（かくらさんの復原)、狐原遺跡（墨書土器)、北中原遺跡（カマドの復原)、上野原遺跡（中道往還と遺物)、甲府城（瓦の名称と使用場所)、宮沢中村遺跡（近世の人々の生活）など13遺跡で、それぞれ特徴ある展示を行った。遺物、パネル等によるのみでなくコンピューターやビデオを用いた映像による遺跡の紹介も行った。今回は遺跡展に１コーナーを設定し「科学の目でみる考古学Ｉ」の展示を試みた。これは、考古学と周辺科学とを結びつけた様々な研究を紹介するものである。内容は①お米の化石から何がわかるの？②昔の地形はどんなだった？③川底から象さんがでたの？④土の層をどうやった持ってきたの？⑤壊れそうな出土品をどうするの？⑥錆びた出土品が展示されるまで⑦昔は何を食べていたの？といった質問形式の７テーマで実施し、小学校高学年にも分かる表現方法をとるなどの工夫も行った。

8．第６回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

日　　時　1995年２月22日
場　　所　風土記の丘研修センター
研修テーマ　遺跡出土の動植物遺体
　　――特に土壌の取り扱いについて――

今年度の市町村埋蔵文化財専門職員研修は、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターの松井章先生を招き、上記のテーマで行った。当日は、市町村や帝京大学山梨文化財研究所の文化財専門職員、当センター職員などを含め、県内で実際に発掘調査に従事している担当者が約60名参加した。

研修では現在日本の内外で行われている動植物遺体の研究方法の実際とその成果について多くの研究例が報告された。特に、土壌から検出された寄生虫などから古代のトイレを検出し当時の人々の食生活や病気などの実態を明らかにする「トイレの考古学」、また馬や牛の脳を使って動物の皮をなめす技術が動物遺体の検討から追究できるとする動物遺体研究の一端など、これらの方法がこれまでの人為遺物の研究では検証することのできなかった分野に及んでいることが紹介され、遺跡内の土壌が持つ情報の大きさが再認識された。また、遺跡から採取された実際の土壌をフローテーションによって選別する実習では、効率的な選別法が紹介され、今後の調査において非常に有意義な研修であった。

9．調査研究課課内研修会

当センターでは、月に一回程度の割合で「調査研究課課内研修会」を開催した。これは発掘調査に携わる職員が、様々な知識を得る機会を設けることを目的としている。内容は多岐に渡った。本年度の実施内容は下記のとおりである。

	開催日	講演・発表内容および講演・発表者	備　　考
1	1994. 5. 31	「測量と考古学」 宮塚義人氏　株式会社シン技術コンサル文化財調査部長	発掘調査における測量の基本的考えと、最新の測量技術・測量機器の紹介
2	1994. 6. 30	「山梨県内出土の土器の胎土分析について」 河西　学氏　帝京大学山梨文化財研究所	県内各地の地質と遺跡から出土した土器の胎土物質を比較し土器の産地を推0定していく方法について講演
3	1994. 7. 29	「埋蔵文化財センターの予算・文書実務について」 遠藤　晋　山梨県埋蔵文化財センター	発掘担当者と庶務間の迅速・円滑な事務手続き・事務処理について実例を交えての説明
4	1994. 8. 31	「スリランカ見て歩き」 小林公治　山梨県埋蔵文化財センター	スリランカの遺跡やイギリス統治時代の発掘及び現在の文化財保護に対する状況を紹介
5	1994. 9. 30	「果たして発掘調査にコンピューターは必要か」 山梨県埋蔵文化財センター（シンポジュウム形式）	発掘調査とその後の整理に使用されているコンピューターの在り方についてその短所長所を洗い出す試み
6	1994. 10. 31	「プラントオパール分析の有効性と簡易定性分析」 中山誠二　山梨県埋蔵文化財センター	遺跡内におけるイネ科植物の存在の発見方法についての実習を交えての講演
7	1994. 11. 30	「コンピューターグラフィック使用の地形環境分析」 阿部正人氏　山梨県デザインセンター	遺跡と遺跡付近の地形図・写真を立体三次元映像に復元することの有効性について実演を交えての講演
8	1995. 1. 31	「ブラジルの考古学」 雨森サンドラ奈美氏　サンパウロ大学考古人類学博物館	ブラジルの考古学の歴史と主な遺跡及び発掘調査の現状の講演
9	1995. 2. 28	「遺物実測の効率化を考える」 山梨県埋蔵文化財センター（シンポジュウム形式）	整理作業の中で多くの時間を必要とする実測作業の在り方や方法の改良点などについて意見交換を試みる

10．海外技術研修員受入れ

山梨県埋蔵文化財センターでは県で毎年実施している海外技術研修員受入れ事業に基づき、今年度七月より雨森サンドラ奈美氏を受け入れた。雨森氏はブラジル国サンパウロ大学考古・人類学博物館に技師として在籍しており、主に貝塚出土の食物残滓に関する調査研究を行っており、日本の縄文時代中期の貝塚との比較も研究対象としている。

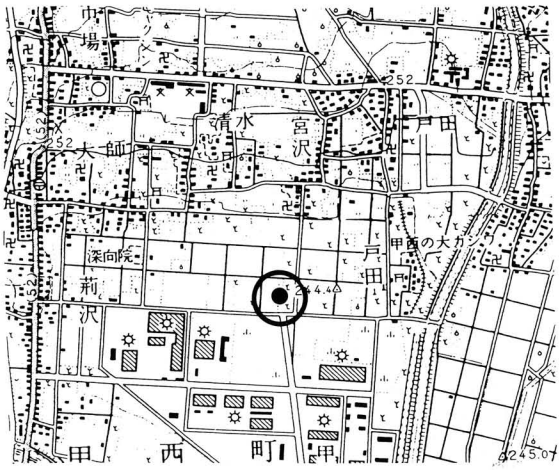
当センターにおいては、７月から12月までは野外研修として発掘調査に参加した。具体的には東八代郡中道町の弥生時代後期の集落跡と古墳時代中期の墳墓が確認された岩清水遺跡において、各種機材を用いて遺構や遺物、地形などの測量を中心に、また平安時代の集落が確認された一宮町北中原遺跡では遺構検出やそれに伴う遺物の取り上げなど、発掘調査の方法論に関する研修を行った。また１月から３月までは、報告書刊行に至るまでの整理作業の研修を行った。内容は石器・土器等遺物の実測、図版の作成方法、さらに、より高度な知識を得てもらうために、帝京大学山梨文化財研究所において遺物の水洗選別、木器・鉄器保存処理など各種の実習を受けた。その他、県内外の博物館や遺跡等を見学し、日本の考古学についても一層見識を深めている。

研修の受入れは初めてであり、戸惑いもあったが日常的に行っている事業の中で習得してもらい、ブラジル国で使えるものがあればよいのではないかといった考えの中で実施した。十分であったかは疑問であるが、今後の雨森氏の健闘を期待したい。

II　各遺跡の発掘調査概要

1．宮沢中村遺跡（みやざわなかむら）

所 在 地　中巨摩郡甲西町宮沢字東宮沢
事 業 名　一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設
調査期間　1994年４月25日～1995年１月21日
調査面積　7.000㎡
担 当 者　新津　健・田口明子



宮沢中村遺跡　位置図

宮沢中村遺跡は甲府盆地の南西端、櫛形山に源を発する滝沢川と坪川とに挟まれた標高240mほどの沖積地に位置する。この一帯は水田や畠が広がっているが、江戸時代には「宮沢」集落が栄えていたところである。しかし滝沢川や坪川の決壊や富士川の逆流により度々水害を受けたことから、明治後半期に全戸が移転し、最後に残った法浄寺も大正年間に移ったと記録されている（甲西町誌）。

発掘調査の結果、江戸時代の集落跡、中世の護岸を形成する杭列や網代列、平安時代から中世とみられる水田跡などが確認された。

（江戸時代の集落）　初期・中期・末期といった三面が確認されたが、中心は江戸末期の集落であり、民家および寺に関する建物跡や付随施設がある。民家跡は盛り土上に礎石を据えたもので、文献を参考にすると桁行７間・梁行３間半の建物の可能性がある。さらに南側には井戸、北側には水溜めがみつかっている。この民家の西から北にかけては寺域となり、池や水路・石垣などが境界となっている。寺に関する施設としては、参道・本堂（６間×４間の一部を調査）・七面堂・庫裏とみられる建物跡・池跡・水路跡などが発見された。参道は石敷部分もあり、両側には並木根が認められた。池には石垣のめぐるものもあり、水路沿いの石垣とともに建物の廃材を使って胴木とした例も多い。建物はやはり礎石や根石の配列から確認された。墓域にも当たったようで、人骨が５体ほど調査された。出土遺物は陶磁器・木製品を中心に１万点を越える。陶磁器では照明具、仏具、碗類・皿類・鉢類などの生活用具などがある。木製品では下駄・漆椀・桶・曲物・傘の一部などの生活品を中心に、建物の建築用材までみられる。水に浸かった遺跡であることから、モモ・ウメを始めとして種子類や昆虫の甲殻類も多い。寛永通宝などの銭類、かんざし・煙管といった金属製品も出土した。その他土製品の玩具類もあり、全体として江戸庶民の生活の匂いあふれるものが多い。

（中世の護岸）　２条の杭列が調査された。いずれも発掘区の北東から南西に40～50mほどの長さで確認されたもので、発掘区外にも相当延びているものと思われる。１号杭列は長さ１mから1.8mの長い杭を用い、それに小枝をしがらみ状にからめ補強したものである。２号杭列は高さ80㎝ほどの網代垣状の編み物を杭にはさみ込んだものである。網代が良好に残っていたのは15mほどで、他は水流により元の姿は乱れていた。出土遺物が少なく時期決定が難しいが、隣接する東丹保遺跡

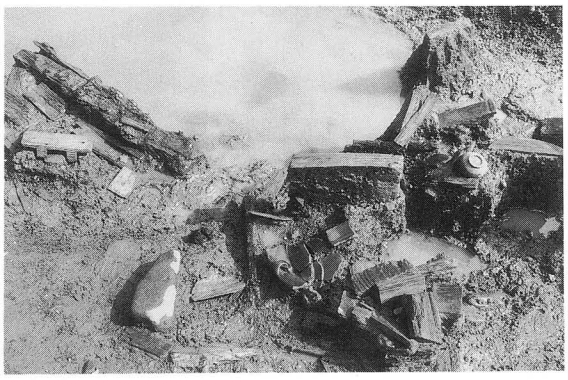
を参考に、鎌倉後半から室町時代と考えている。

（水田跡）　中世の杭列が確認された面からさらに下層に良好な粘土層があり、そこに一辺が10m程の水田跡が少なくとも３面はあることがわかった。詳細な時期は不明であるが、水田を覆う砂利層中から平安時代の土器片が出土すること、水流が北東→南西であり、東丹保遺跡の弥生後期水田とは方向が異なること、規模がやや大きいことなどから平安ないし中世をさかのぼるものではないと思われる。

１．江戸末期の遺構群

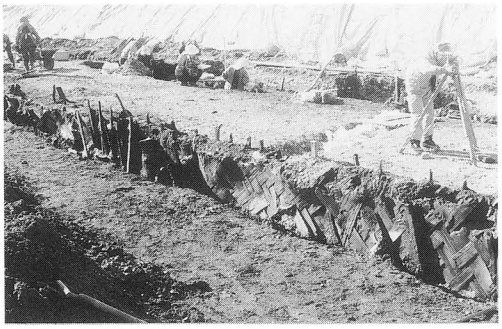
２．石垣と胴木（江戸末）

３．井戸（江戸末）



４．池から出土した遺物（江戸中頃）

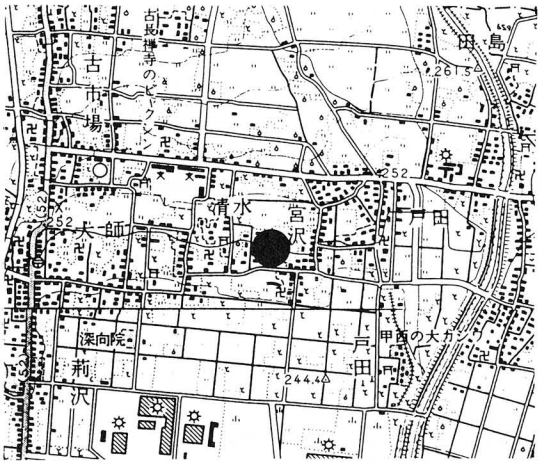
５．水田跡（中世以前）



６．杭列と網代（中世）

2．大師東丹保遺跡（Ⅲ区）

所 在 地　中巨摩郡甲西町
　　清水字川原田227－1外
事 業 名　一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設
調査期間　1994年５月18日～12月22日
調査面積　9,500㎡
担 当 者　小林健二・小泉　敬



大師東丹保遺跡Ⅲ区　位置図

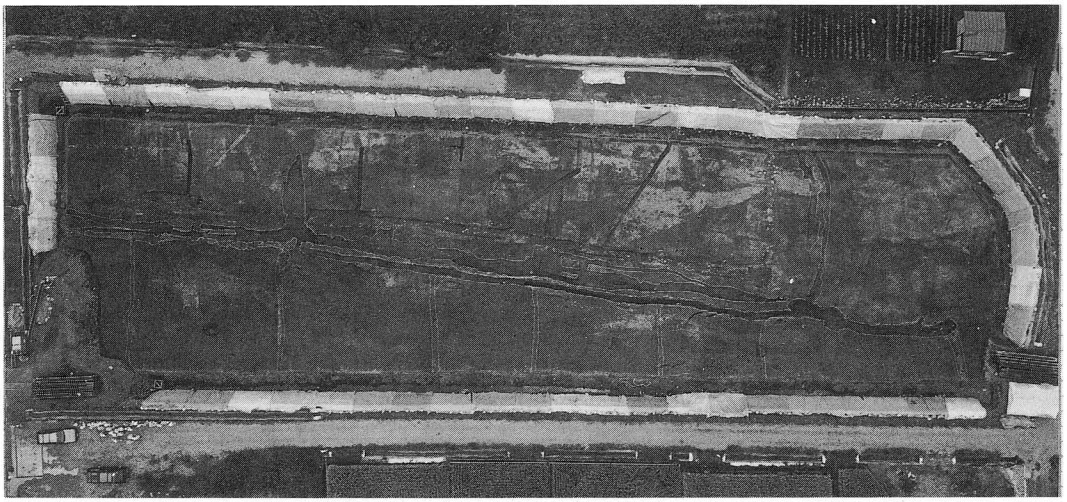
宮沢中村遺跡の北約100mに大師東丹保遺跡は位置する。遺跡は南北400mの長さに及ぶことから、東西に走る既設の道路により、約100mごとに調査区をⅠ区～Ⅳ区に区分し、昨年度より調査が行われている。氾濫により厚く堆積した砂礫層の間に幾つかの文化層が存在しており、その中でも特に第１面では、多くの木製品と共に生々しい中世世界が掘り起こされている。それは当時の人々の生活と祭祀との関わりを強く印象づけるものであった（当センター『年報10』参照）。今年度は昨年度のⅠ区・Ⅱ区に引き続き、Ⅲ区・Ⅳ区の調査を行った。Ⅲ区はⅡ区の北側に隣接しており、Ⅱ区同様２面の文化層が確認されている。第１面が鎌倉時代中頃を中心とした層、第２面が弥生時代後期末である。

第１面では、掘立柱建物跡１棟、水田跡８枚、溝10条、杭列３条が発見された。調査区を南北に溝が走り、杭列が並行している。溝は北端から始まり、途中幾筋かに別れながらⅡ区へ続いている。杭列には昨年度Ⅰ区でみられたように、小枝で杭と杭とを結び補強している箇所があるが、氾濫により杭は大きく傾き、中には折れているものがあった。これらの溝・杭列を境にして、東側には水田が広がっている。東西畦畔で15～18mごとに区画された階段状に造られているが、南北畦畔は確認されていない。Ⅰ区での状況を考慮すると、１枚の区画は一辺が約15mの正方形になるものと考えられる。これに対し西側は遺構の残りは悪かったが、掘立柱建物跡については東西４間（柱間約２m）、南北６間（柱間屋2.2m）の大型の総柱建物とみられ、水田に伴う倉庫だった可能性もある。柱根が残っていた部分があり、杭列同様に大きく傾いているものがあった。この他南側では井戸跡１基が発見されている。石組みの小型のもので、出土遺物はなく時期の判断は難しいが、石がさらに数段上に積んであったとみられ、上記の遺構より新しい時期（戦国期か）のものと考えられる。

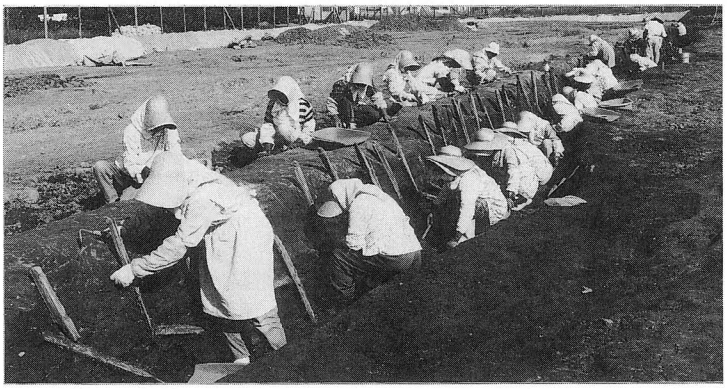
遺物は、下駄・草履状木製品・漆塗り椀をはじめとする木製品のほか、かわらけ・鍋・鉢といった日常雑器、青磁・白磁のような中国製磁器、銅銭（北宋銭）、動植物遺存体などが出土している。昨年度同様多岐にわたるが、Ⅱ区に比べ祭祀的な側面は弱い。しかし溝とその周辺からは人形のほか、斎串、ウマの下顎骨、モモ核など、祭祀との関わりを示唆するような遺物も随所にみられた。

第２面も氾濫の影響が大きく、調査区の北側約半分は流されて残っていなかったが、溝状の落ち込みと、地震による地割れの跡が発見された。極めて残りの悪い状況下で調査された地震の跡であ

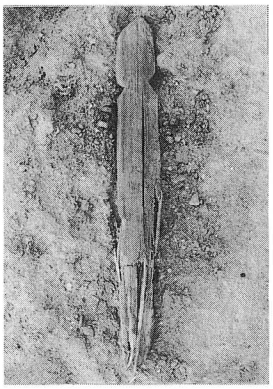
るが、下層にある砂礫層が液状化により噴砂となっていることが確認でき、中には径15㎝の礫を含んだ箇所もあり、地震の規模の大きさを物語っている。遺物は、流されて磨滅した土器片・流木がわずかに発見されただけであった。



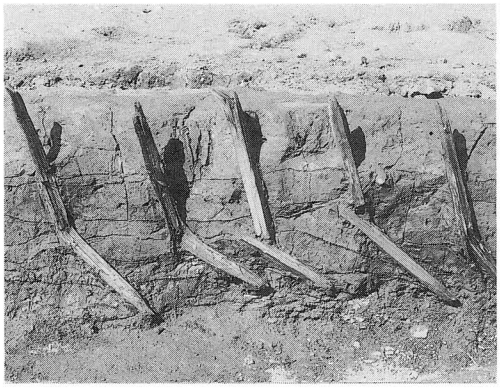
第１面　全景



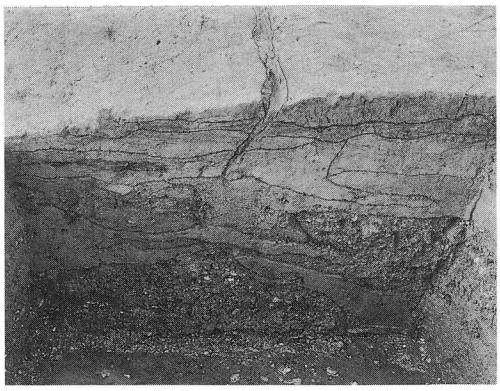
第１面　１号杭列調査風景



第１面出土　人形



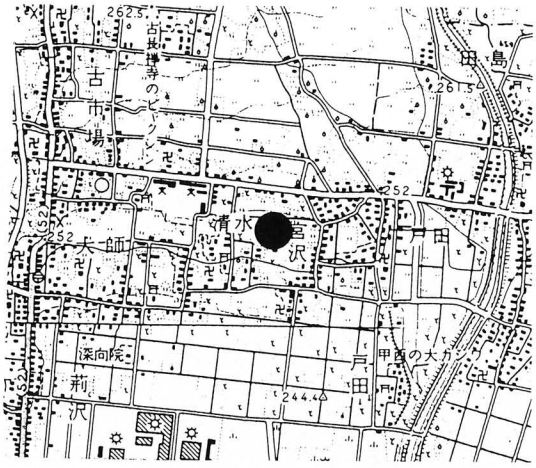
第１面　氾濫で折れた杭



第２面　地割れと噴砂

3．大師東丹保遺跡（Ⅳ区）

所 在 地　中巨摩郡甲西町
　　清水字川原田227－1外
事 業 名　一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設
調査期間　1994年４月18日～12月27日
調査面積　7,800㎡
担 当 者　保坂和博・松土一志



大師東丹保遺跡Ⅳ区　位置図

Ⅳ区はⅢ区の北側に隣接する幅約40m、長さ約95mの範囲であり、標高約250mを測る。

この地域は滝沢川および坪川の氾濫によって形成された砂礫層が現地表下に幾重にも堆積し、非常に湧水量が多い低湿地帯である。Ⅳ区ではこの砂礫層の間より３面の文化層が検出され、第１層目の鎌倉時代、第３層目の弥生時代後期はⅢ区同様であるが、第２層目に古墳時代前期の文化層が確認されている。

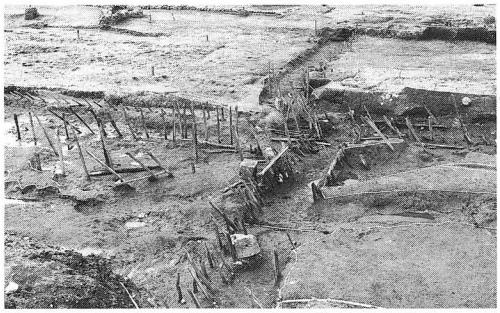
第１層目は現地表下約1.5mに存在し、洪水による砂礫層に厚く覆われている。遺構は畦畔、水路、杭列、溝状遺構等および第２層目の調査で存在が明らかにされた古墳墳丘部が検出されている。これらの遺構の遺存状況より第１層目は第１段階として水田経営がなされ、水路などが築造され、第２段階として洪水によりこれらの遺構が破壊され、第３段階として洪水から生産域および居住域を守るための護岸補強用の杭列を築造し、調査区中央部を南北に縦断する河道を形成したと考えられる。杭列には松の小枝や幅約10㎝、厚み0.3㎝の板材を上下２段（現状は２段であるが本来は３段以上になると思われる）に杭と杭の間に渡したものがある。遺物は土器、陶磁器、石製品、鉄製品、銅銭、木製品、動・植物遺存体等が出土している。中でも他の遺跡に比べ木製品の遺存率が高く、本遺跡の地理的環境を示すものであり、下駄、曲物、漆塗りの椀・皿・盆などの生活用具をはじめ、斎串などの祭祀用具および建築用部材などがみられる。遺物の分布状況より大半の遺物は度重なる洪水によって運ばれた土石流に混じって本遺跡内で二次堆積したものと考えられる。

第２層目は現地表下約２mにあり、調査区中央部で検出された古墳の周辺部のみに残存しており、当時よりこの地点が微高地であったことが窺われる。遺構は古墳と土器集中区が検出されている。古墳は調査区外へ展開しているため明確な規模、形状は不明であるが、調査区内の残存状況より円墳になる可能性が強いと思われる。規模は残存部での最大径が約36m、高さが約１mを測る。主体部は調査区内では検出されていない。墳頂部および墳丘部北側と西側は氾濫により激しく削平され、北側は葺石が崩れ落ち裾部周辺に散乱し、西側は裾部のみ残存している状況である。墳丘構造は残存部では版築は確認されておらず、低湿地の中の微高地を利用して構築していると考えられる。葺石は約10～20㎝大の河原石が用いられている。古墳からの出土遺物は墳丘部下段斜面より多量に土器片が検出され、二重口縁壺が多くみられる。出土状態は一部を除いてはほとんどが細片であり、上方から転落した様相を呈している。土器集中区は古墳の周辺に４ヶ所検出され、主に小型壺、高

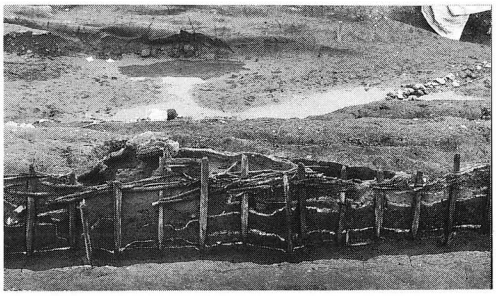
坏、甕等が出土している。古墳出土土器群との間に年代差が考えられ、今後古墳の年代とも兼ね合わせ検討していきたい。

第３層目は現地表下約2.5mに存在し、氾濫による影響のため僅か10㎝程の厚さの不安定な堆積状況を呈している。調査は第２層目（古墳時代）の文化層が検出されなかった調査区北側で行われたが遺構は検出されず、動・植物遺存体が僅かに出土している。

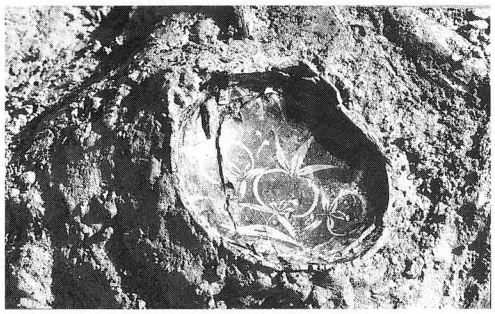
今回の調査により鎌倉時代から水対策に大きな労力が費やされていたことが明らかになり、また低湿地での古墳の発見により、古代社会の解明に新たな手がかりが得られたと思われる。



第１層　１号水路（東より）

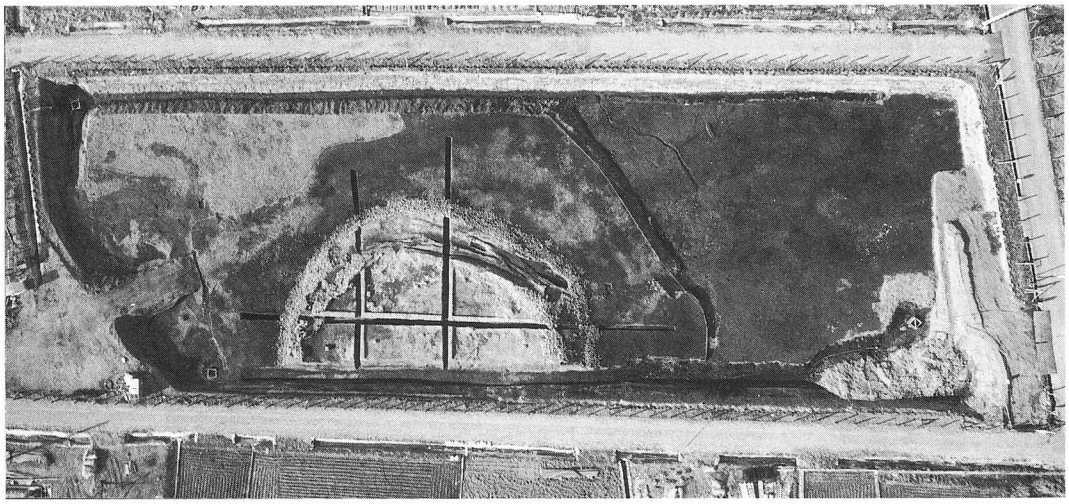


第１層　３号杭列（西より）



第１層　漆塗椀

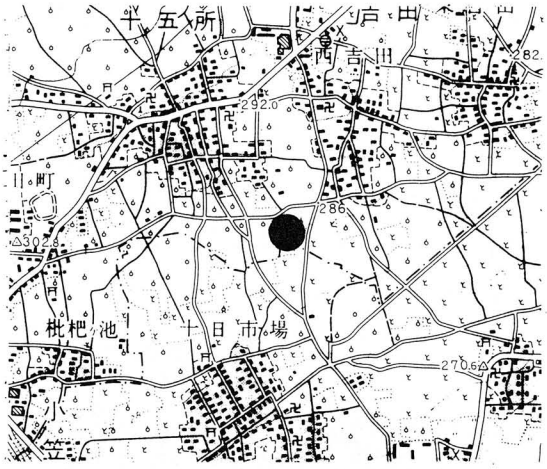
第２層　１号土器集中区



第２層　全景

4．村前東（むらまえひがし）Ａ遺跡（Ｉb区・Ⅲ区）

所 在 地　中巨摩郡櫛形町
　　十五所字村前東297外
事 業 名　一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設
調査期間　1994年４月11日～12月26日
調査面積　14,400㎡
担 当 者　中山誠二・小林公治



村前東Ａ遺跡　位置図

今年度の村前東Ａ遺跡の調査は、1990年と1993年の調査に続く第３次調査にあたる。ここでは今年度調査の内、甲西道路建設予定地のＩb区とインターチェンジ予定部分のⅢ区の調査について概要を述べる。

Ｉb区は昨年度調査区のＩ区の北側に連続した幅16m、長さ50mの地域である。調査の結果、平安時代の溝状遺構２本、古墳時代の竪穴住居跡１軒、竪穴遺構１基、溝２本、土坑３基、ピット27基が発見されたが、Ⅲ区で確認されている江戸時代および弥生時代の遺構は本地区では検出されなかった。

Ⅲ区では、江戸、平安、古墳、弥生時代の文化層が４面明らかにされ、各層において遺構が検出されている。

江戸時代の第１面では、土坑28基、溝13本がⅢ区北東部に集中して発見された。土坑の形態は、直径３m程の円形のタイプと幅1.5m、長さ２～2.5m前後の長方形のタイプに大きく分類され、いずれも深さ1.5～２mを測る。前者のタイプは単独で存在し、後者のタイプは並列したものや、いくつかが連結し結果的に溝状を呈するものも存在する。土坑内には小～中礫が充填されており、土坑掘削後人為的な投げ込みが行われ、埋められたような状態を示す。覆土内からわずかであるが18世紀代の陶磁器片が出土している。これらの土坑は、新居道下遺跡と同様に粘土を採掘した痕跡と判断され、加賀美地区の瓦の生産にかかわるものか、土壁の材料と推定される。

平安時代以降、江戸時代以前の遺構としては、調査区の西側にあたる08区Ａ～Ｄ、03区Ｓ・Ｔ－04～06グリッドにかけて洪水跡が確認されている。この洪水跡は、西から東方向へ向けて流れた痕跡をとどめており、最大幅８m、深さ2.5mを測る。内部には甌穴（Pothole）と呼ばれる自然の濁流によって形成された特徴的な地形が存在する。

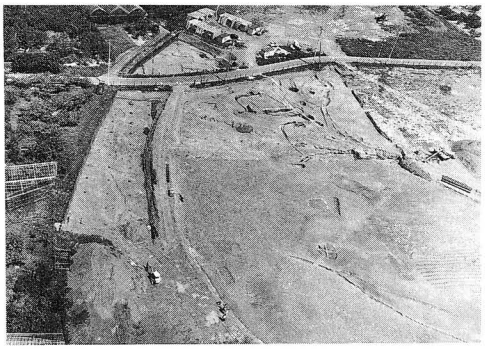
平安時代の第２面では、竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡１棟が確認された。住居跡はⅢ区の北東部に集中する傾向が認められ、同時期に数軒の住居が併設されていた状況が看取される。集落の継続時期は、出土土器から９世紀～10世紀にわたるものと考えられる。

古墳時代の第３面では、古墳時代前期の竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡２棟、土坑１基が検出された。該期の住居跡は、調査区北側において密集する傾向をもつ。住居跡の平面プランは長方形ま

たは正方形を呈するものが多く、規模は一辺４～７ｍ前後である。これらの遺構からは、土器のほか若干の鉄製品が出土している。特に出土土器は甕、壺、高坏、器台などの古式土師器で、甲府盆地における３世紀後半から４世紀の土器様相の変化を捉える上で重要な資料である。

弥生時代の第４面では、調査区南側において水田跡が20面発見された。水田は、長辺３～７ｍ、短辺２ｍほどの長方形を呈する小区画水田で、長軸方向をほぼ東西方向にとって配列されている。これらの水田跡は、付近の歴史的景観復元や御勅使川扇状地の形成過程を考える上で極めて重要な発見と判断される。

第４号土坑（江戸時代）

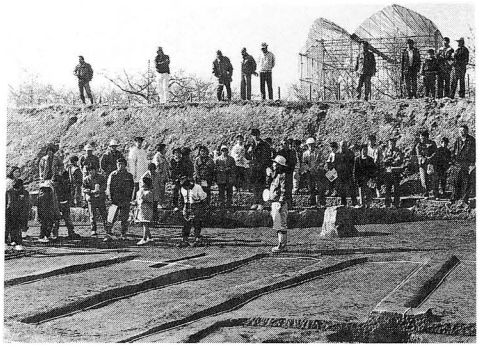


Ⅰb区完掘　Ⅲ区江戸時代面

第10・11号住居址（平安時代）

Ⅲ・Ⅳ区全景

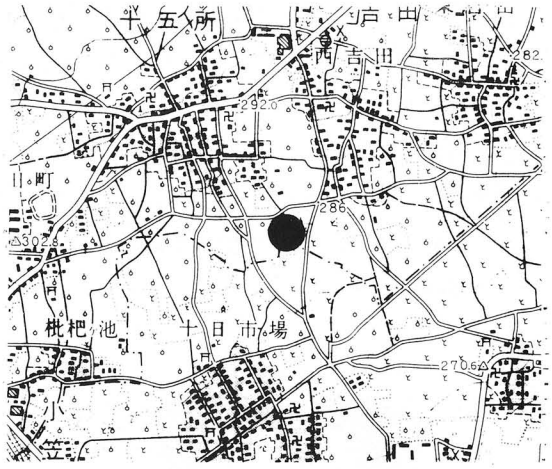
第22号住居址（古墳時代）



遺跡見学会

5．村前東（むらまえひがし）Ａ遺跡（IIb・Ⅳ区）

所 在 地　中巨摩郡櫛形町
　　十五所字村前東297外
事 業 名　一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設
調査期間　1994年４月16日～12月26日
調査面積　14,400㎡
担 当 者　三田村美彦・佐野和規

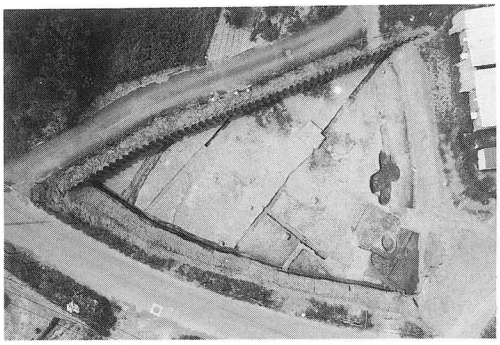


村前東Ａ遺跡　位置図

本遺跡は甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高約280ｍに立地している。調査は昨年度から継続して行われており、今年度は道路建設予定地に当たる箇所をIIb区、インターチェンジ建設予定地に当たる箇所をⅣ区として実施した。

IIb区では、１面（近世）・２面（平安時代）・３面（古墳時代）にわたり文化層が確認されている。１面では溝状の遺構が確認されている。一部土坑状に深く掘りこまれている箇所があり、粘土採取を目的とした遺構の可能性がある。２面では平安時代の住居址２軒が調査区北側で検出されている。３面では住居址３軒、土坑１基、溝１条、焼土址５基が確認されているが、遺構確認面と覆土の色調が極めて近似しており、遺構確認が難航した。とくに、住居址は火災等で、覆土に炭化物や炭化材が多量に残存されるような場合でないと明確なプランを確認できない状況であった。確認された遺構は出土した土器等から、いずれも古墳時代前期に比定されよう。

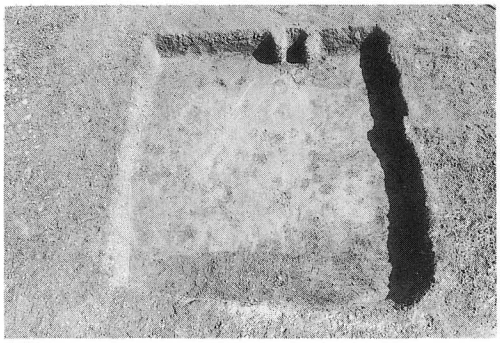
Ⅳ区では１面（近世）・２面（平安時代）・３面（古墳時代）・４面（弥生時代）にわたり文化層が確認されている。１面では畠状遺構１ヶ所、溝数条、竪穴状遺構１基が検出されている。このうち、畠状遺構は南北約15ｍ、東西約24ｍの広範囲にわたり確認され、畝や畝間溝には直径10㎝程の穴が多数検出されている。２面では平安時代の住居址１軒、掘立柱建物址１棟が検出されている。３面では住居址16軒、掘立柱建物址２棟、溝２条のほか土坑・焼土址等が確認されている。住居址は方形プランになるものが多く、2.5×2.5ｍの小型のものから９×８ｍの大型のものまでその規模は多様であるが、５×５ｍ前後のものがその主体を占めるようである。また、調査区の東西両端で検出された溝は南北方向にほぼ平行して走っており、覆土には砂礫が充満していた。このうち、西側で検出された溝はIIb区で検出された溝と同一の可能性がある。これらの遺構からは古墳時代前期に比定される壺、甕、高坏、器台等が出土しており、山陰系や東海系など他系統の土器も混在している。４面ではIII区との境界付近を中心に水田址が確認された。幅約２ｍ、長さ約２～５ｍの方形を呈する水田を畦畔が区画するもので、小区画の水田となる。畦畔は一部で切れる箇所があり、水口と思われる施設が確認できる。水田址からその時期を決定できる遺物は出土していないが、３面と４面が間層をもって層位的に分離できることや、３面の古墳時代前期に比定される住居址に切られていることから本址は弥生時代の所産と思われる。



IIb区　全景

IIb区　古墳時代住居址

III区　畠状遺構

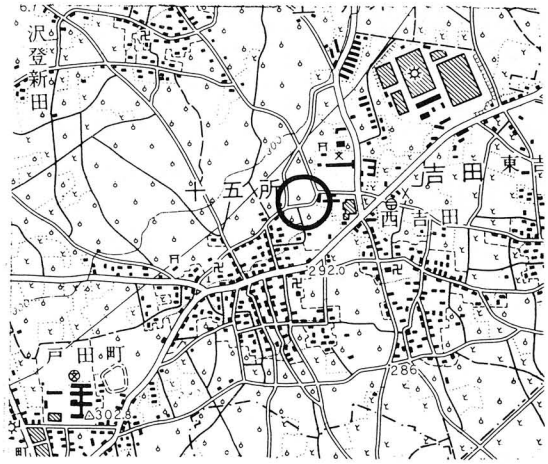


IV区　平安時代住居址

III区　3・4面　全景

6．十五所（じゅうごしょ）遺跡

所 在 地　中巨摩郡櫛形町十五所
事 業 名　一般国道52号線改築・中部横断自動車道建設
調査期間　1994年４月18日～12月27日
調査面積　13,300㎡
担 当 者　米田明訓・大庭勝

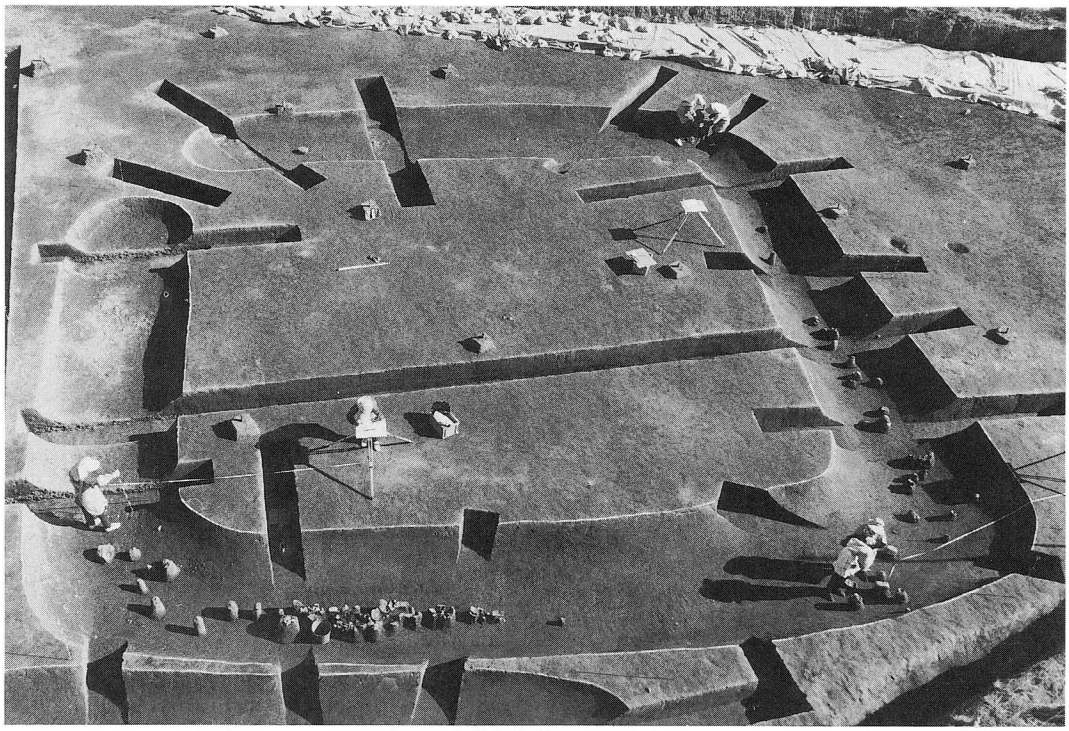


十五所遺跡　位置図

十五所遺跡は、甲府盆地西部を流れる御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高は約290m付近に立地している。遺跡は扇端部に形成されている北西から南東に向かって伸びるゆるやかな傾斜地に展開している。本遺跡は甲西道路の建設に伴って、平成６年度４月18日から調査が開始された。調査は、県道甲府・櫛形線とそこから北へ150mのところを東西へ走る町道までの間をＩ区、その町道とそこから北へ約50mのところを北東から南西へ走る町道までの間をII区とした。本年度は、Ｉ区の南半分の第１層目（弥生時代後期の包含層及び方形周溝墓）と北半分の第１層目（古墳時代前期の住居跡と弥生時代後期の包含層及び方形周溝墓）と第２層目（弥生時代中期中葉の包含層）をおこなった。北側及び南側の第１層目の遺構確認面は地表より約１～２m程度と比較的浅く、地下水が出水する等の心配はなく調査も順調に進行したが、扇状地に立地する遺跡であるため地山と遺構覆土との識別が極めて困難であった。しかし調査の結果、北側からは古墳時代前期の住居跡２基、南側から弥生時代後期の方形周溝墓７基の遺構が発見された。特に方形周溝墓は峡西地域で初めてその存在が明らかになった。遺物では古墳時代前期の土師器や弥生時代後期の土器が多数出土している。特に南側の方形周溝墓で出土している土器には完形もしくはそれに近い復元可能な壺や甕、またおそらく葬送儀礼に使用されたと思われる小形の壺や甕が出土した。第２層目はＩ区北側で調査をおこなった。その第２層目は第１層目の下約40㎝にある。そこから弥生時代中期中葉の土器や焼土跡が確認された。焼土跡は直径約20㎝であり、形態的に地床炉に類似していたが、住居を構成する床面や柱穴などの遺構は発見できなかった。

本年度の調査で発見された遺構は、弥生時代後期の方形周溝墓７基、古墳時代前期の住居跡２基となる。今後おこなわれる本年度の整理作業や来年度の発掘調査また本遺跡とほぼ同時代の遺物や集落跡が発見された本遺跡から南側約200mに位置している村前東Ａ遺跡の資料の検討により、この地域の弥生時代後期から古墳時代前期にかけての状況が明らかになっていくであろう。

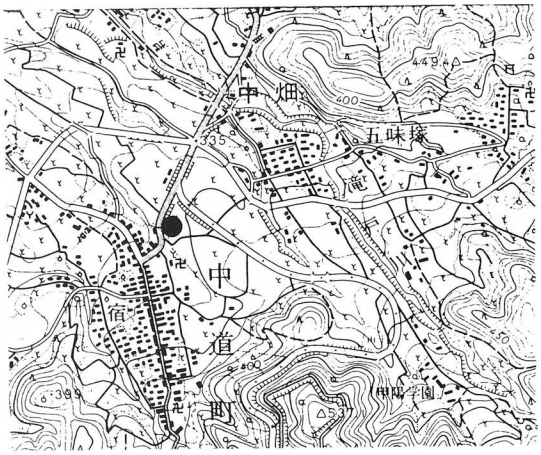
方形周溝墓群（南側）航空写真



6号方形周溝墓測量風景

7．上野原遺跡（うえのはら）

所 在 地　東八代郡中道町右左口字上野原
事 業 名　一般国道358号線拡幅
調査期間　1994年５月９日～12月９日
調査面積　1,700㎡
担 当 者　村石眞澄・大谷満水



上野原遺跡　位置図

本遺跡は、御坂山系に連なる日陰山、滝戸山から甲府盆地に至る曽根丘陵の最上部に位置している。1971年と1987年の二度にわたる発掘により縄文時代中期を中心とする住居跡が38軒、その他おびただしい数の土坑が検出された。今回の調査区は以前の調査が台地の中央を対象としたのに対して台地の端にあたり、国道の両側に沿って細長く伸びている。

発掘の結果、調査区北半分からは縄文時代中期中葉の住居跡２軒、土坑約50基が検出された。また、溝状にくぼんだ幅１ｍに満たない１号道路状遺構が、細長い調査区の中央を南北に伸びるよう確認された。路面上からは須恵器、土師器片が少量出土している。

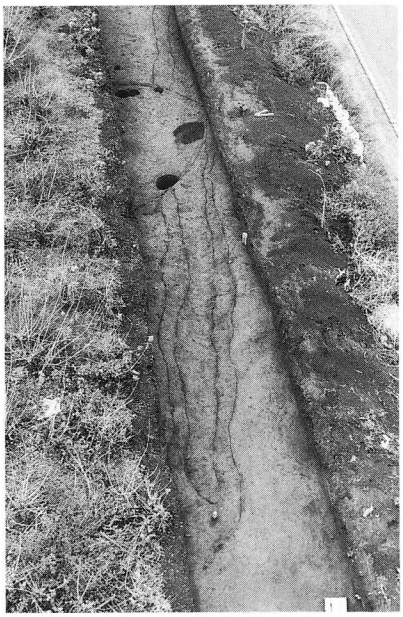
調査区南半分からは、縄文時代中期中葉の住居跡１軒、土坑10基余りと道路状遺構が４条検出された。２号道路状遺構は、今回検出された道路状遺構の中で最も広く、最大幅が約５ｍあり南北に延びている。路面西側には、大礫、中礫の集中が認められた。路面直上からは平安時代末ないし鎌倉時代初頭の常滑の三筋壺の肩部片が出土した。３号道路状遺構は幅が１ｍ程度で硬化面が薄く遺物はほとんど出土しなかった。４号道路状遺構は２号道路状遺構の下から中央がわずかに溝状にくぼんだ状態で確認された。路面上からは須恵器や土師器片が少量出土している。調査区北半分で検出された１号道路状遺構と断面形状が類似しており、４号道路状遺構と１号道路状遺構とは同一の道の可能性がある。須恵器や土師器片が少量出土した。

発掘調査風景

５号道路状遺構は、２号道路状遺構を切って一段低く構築されている。遺物は、ほとんど出土しなかった。

これらの道路状遺構の遺物をみると古代から中世の陶器類がほとんどで近世の遺物が全く出土しなかった。また、すぐ東を通る358号線が江戸時代に中道往還として頻繁に利用されたことを考えると、これと交差するように検出された道路状遺構は近世以前に利用されていた古道と考えられる。

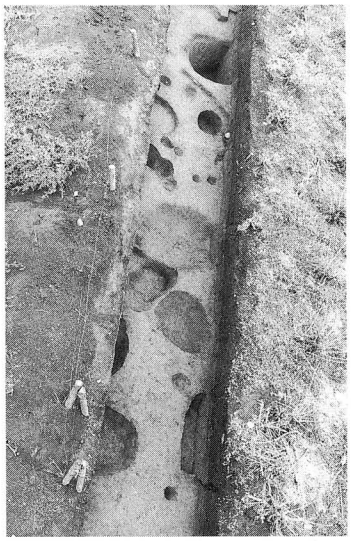
縄文時代の遺構については、調査区北側が濃密であり、南に行くにしたがい希薄となる。これは南側が台地の縁にあたるからと考えられる。過去２回の調査と照らし合わせてみると今回の調査区は上野原遺跡の縄文の大集落の端の部分と考えられる。



１号道路状遺構

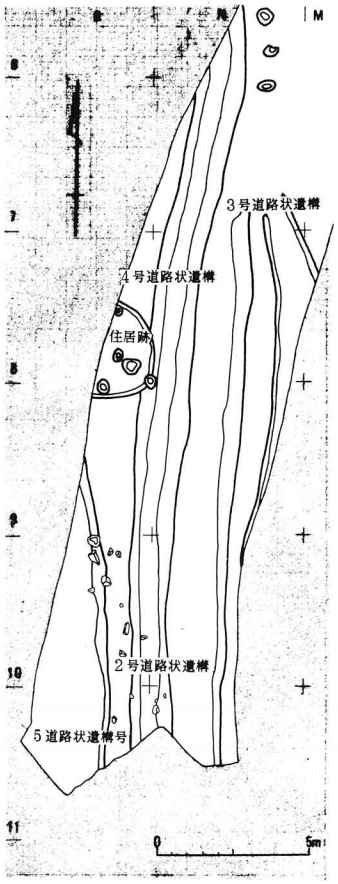
１号道路状遺構

正隆元寶（原寸大）



遺構集中地区

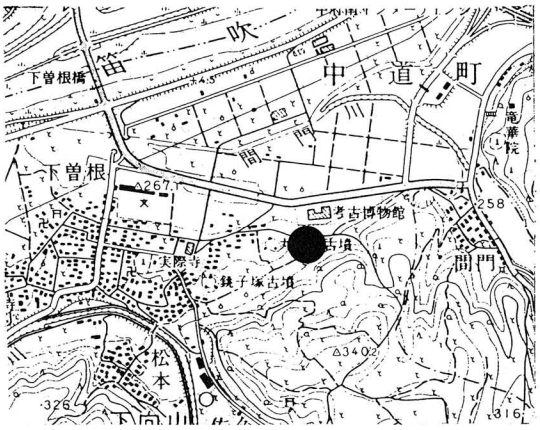
２号道路状遺構



２～５号道路状遺構

8．岩清水（いわしみず）遺跡

所 在 地　東八代郡中道町下曽根字山本
事 業 名　甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園整備
調査期間　1994年６月７日～1995年２月３日
調査面積　9,400㎡
担 当 者　坂本美夫・石神孝子



岩清水遺跡　位置図

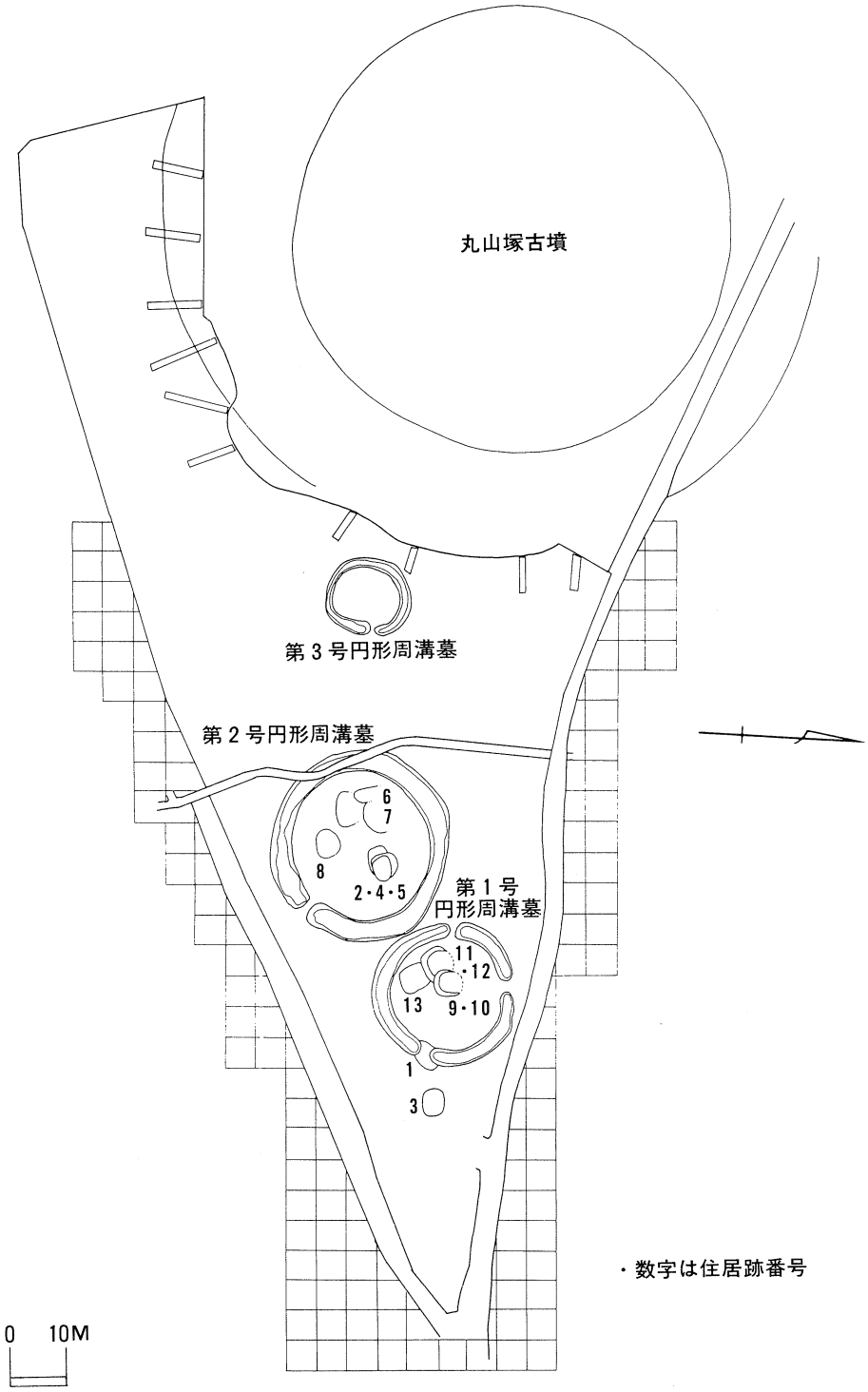
曽根丘陵の下端と甲府盆地とが接する標高260mの地点、笛吹川の左岸に本遺跡は位置している。遺跡の周辺は県内最大の銚子塚・丸山塚古墳を中心とした東山古墳群が存在している。

本遺跡の東側から立ち上がる曽根丘陵には大丸山古墳が、西側には銚子塚・丸山塚古墳が、そして北側にはかんかん塚古墳がそれぞれ位置するなど、周りを古墳に囲まれ、調査区が丘陵に沿って東から西へ三角形を呈するような形でみられる。長い間繰り返された丘陵の土砂崩れによる堆積のためか遺構と覆土との区別がつきにくく、遺構確認は極めて困難であった。

発掘調査の結果、検出された主な遺構は、弥生時代後期前半から中葉を中心とした住居跡13軒、古墳時代中期の円形周溝墓２基と時期不明の円形周溝墓１基である。弥生時代の住居跡は調査区の東西にほぼ横に並ぶような形で検出された。この地点は笛吹川と曽根丘陵の間で一番緩やかな斜面である。昭和53年に行われた考古博物館駐車場の発掘調査でも該期の遺構が確認されていることから、東西に長く集落が営まれていたと推定される。これらの住居跡からは壺、甕、高杯などが出土し、中には中部高地系や駿河、遠江など各地の系譜を引くものが見られ、土器の移動や併行関係を考える上で重要な資料になると思われる。

古墳時代中期の円形周溝墓は開墾により主体部が失われたいたため、周溝のみの確認となった。第１号円形周溝墓は直径約26m（周溝を含む）でブリッジ３カ所を有し、第２号円形周溝墓は直径約30m(同)でブリッジ１カ所を有する。また第３号円形周溝墓は直径約14m(同)でブリッジ１カ所を有しており、３基とも共通して東側部分にブリッジを持っている。平均幅３m、深さ１mの周溝底部には厚さ30㎝の黒褐色土が堆積しており、ここから多数の土師器と少量ではあるが須恵器が出土し、遺構の年代を決める根拠となった。とくに第１・２号円形周溝墓はすぐ北側のかんかん塚古墳とほぼ同規模であり、時期的にもほとんど差がないと思われ、今後これらの関係が注目されよう。しかし第３号円形周溝墓については弥生時代後期の土器がほとんどで須恵器は出土しておらず、年代決定にはなお慎重を要する。この他第３号円形周溝墓の北側に所々遺物を含んだ溝らしき遺構が存在したが、攪乱が激しく遺構確認には至らなかった。

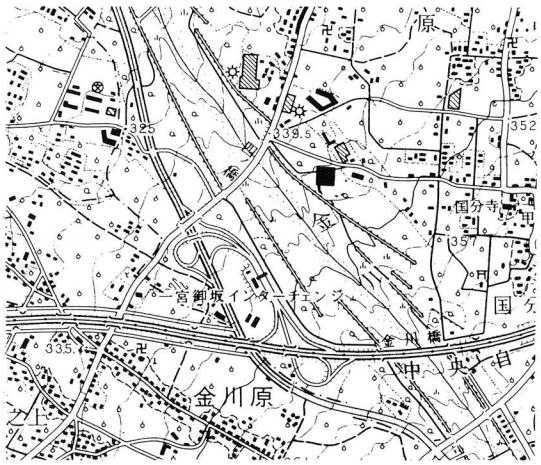
丸山塚古墳周溝の南東部分は外側立ち上がり部分が未確認であったため、10本のトレンチを設定し掘り下げを行った結果、昭和58年度の調査において推定した位置で立ち上がり部分を検出することができたが、遺物はほとんど出土しなかった。


丸山塚古墳
第３号円形周溝墓
第２号円形周溝墓
6
7
8
2・4・5
第１号
円形周溝墓
11
・12
13
9・10
1
3
・数字は住居跡番号
0　10M

岩清水遺跡全体図

9．経塚古墳（きょうづか）

所 在 地　東八代郡一宮町国分字経塚1133外
事 業 名　森林と水のプロムナード建設
調査期間　1994年４月12日～８月30日
調査面積　250㎡
担 当 者　吉岡弘樹・山﨑一良



経塚古墳　位置図

経塚古墳は、御坂山塊を源とし、笛吹川に急勾配をもって下る金川の右岸、標高約347ｍの水害防備保安林内に位置する。

調査は、山梨県林務部より委託を受け、ほぼ４カ月半に渡り実施された。当初、「清掃発掘」ということで２カ月間が調査期間に充てられたが、外護列石、石室内の状況などに予想外の損傷が認められたため急きょ調査期間を延長し、「解体発掘」を行うこととした。なお当墳は、事業の目玉として復原される。

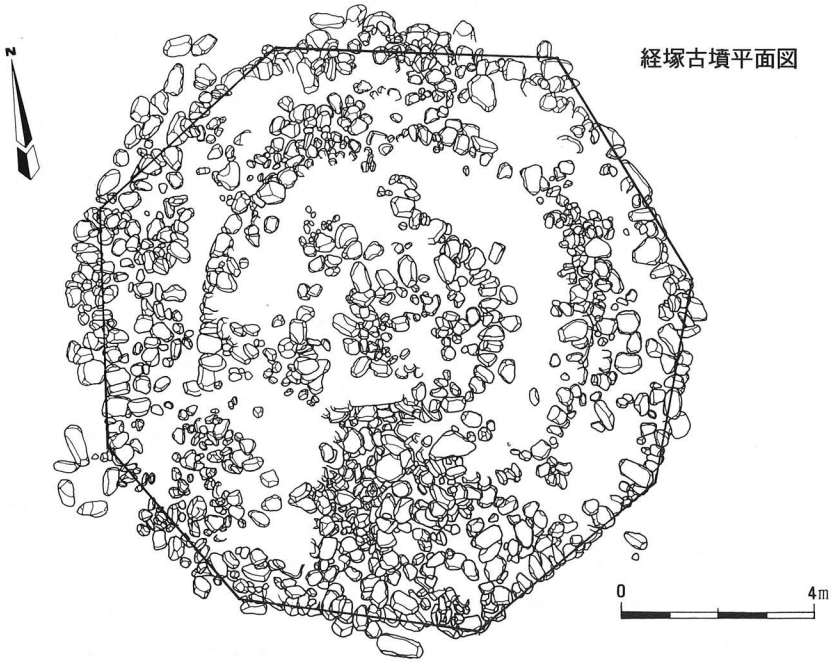
調査前の様子は、墳丘の各所に大型の円礫が露出しており、裾・中段部に石積みが残存している状況が容易に把握することができた。石室は、ほぼ原形をとどめているものの、天井石が１石崩落し、そこから玄室内がうかがえる状況であった。

調査の進行は、石室内と墳丘表土はぎ取り作業の双方を並行する方法で実施され、次のようなデータを得ることができた。古墳の規模は、主軸方位をほぼ真北にとる対辺長約12m、対角長約13m、墳丘高約2.2mを測る。石室は、いわゆる胴張形状の両袖型横穴式石室で、袖石付近の天井石が１石崩落しているものの、他の４石は築造時の模様を残していた。石室各部の法量は、全長約6.6m、玄室長約３m、羨道長約3.6m、天井高平均約1.6mである。また、墳丘には裾（外護列石）・中段・上段と三段の石積みを有し、特に外護列石から、一辺約4.2m～5.8mの直線と、約135°の稜角を持つ全国で９例目の「八角形墳」である確証とした。

遺物は、数回に及ぶと想定される盗掘のため、鉄斧１点、人骨２～３体（後世のもの）、甲斐型杯２点が出土したのみである。

築造年代については、時期決定の根拠となる遺物がほとんどないため、周辺に分布する古墳の石室形態・規模などから推測するしかなく、現段階では７世紀前半と考えておきたい。

経塚古墳は全国でも数少ない八角形墳であり、しかも、５例は畿内に位置する天皇陵ということで、どのような社会背景のもとに八角形墳が金川流域に築造されたのかなど不明な点が多く、それらを解明するためには、今後他地域の類例の検討などを幅広く行わなければならないであろう。



経塚古墳平面図

調査前全景

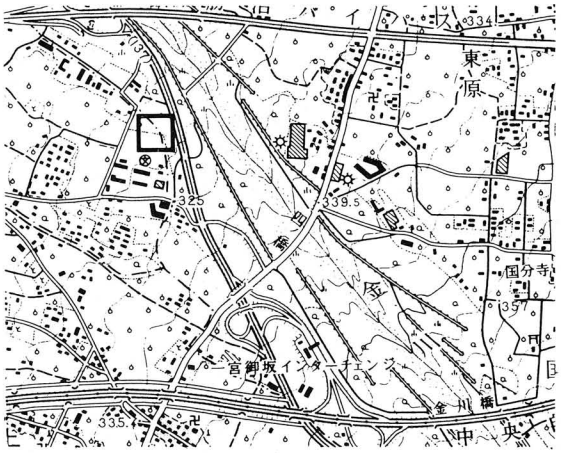
調査風景

全　　景

石室解体風景

10. 狐原遺跡（きつねっぱら）

所 在 地　東八代郡一宮町竹原田字川原田
　　1070番地外
事 業 名　森林と水のプロムナード建設
調査期間　1994年４月27日～10月31日
調査面積　8,000㎡
担 当 者　森原明廣・宮里　学



狐原遺跡　位置図

山梨県の中央部に横たわる御坂山地から流れ出る金川は、扇状地を形成しつつ甲府盆地に流れ込み笛吹川に合流する。この金川扇状地の扇央部、笛吹川との合流点近くに狐原遺跡は位置している。この金川扇状地の周辺は古墳～平安時代の遺跡分布密度が非常に高い地域であることが知られ、特に奈良・平安時代には甲斐国分寺・国分尼寺が造営されるなど、甲斐国の中心的な役割を担った地域であったと考えられている。

狐原遺跡は金川に近接して立地しているが、平成４年度末に実施された試掘調査により調査区内には氾濫から免れた中州状の微高地にのる平安時代集落址が残存することが推測されていた。よって今回の調査では、その微高地上の集落址を主体的に調査するとともに、金川の氾濫に伴うであろう砂礫層が集落に与えた影響を探るべくデータの収集に努めた。

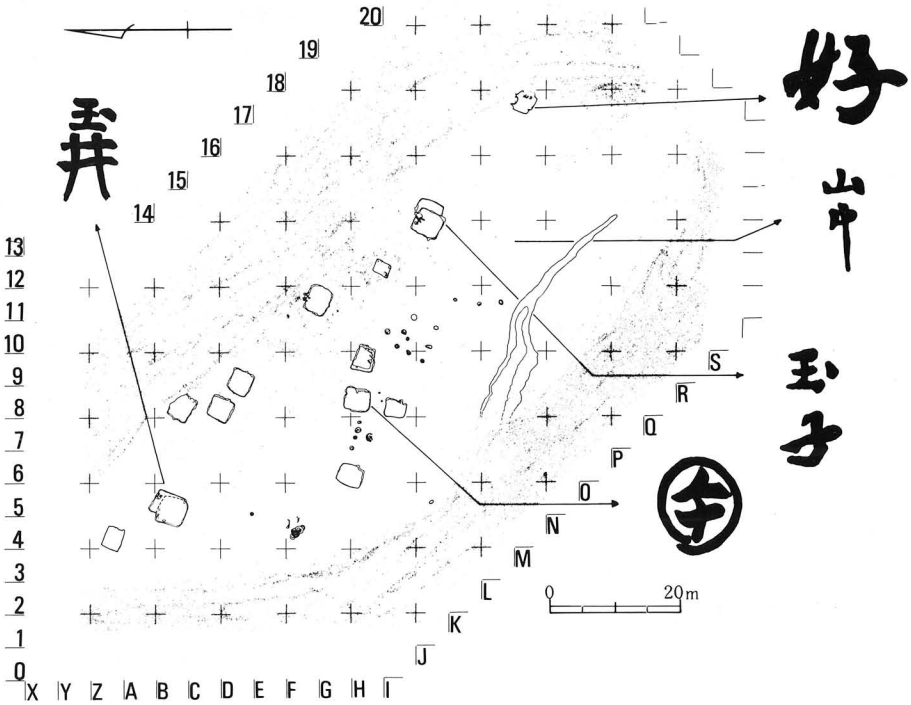
調査の結果、検出された遺構は平安時代前半期（９世紀半ばを中心とした時期）の竪穴住居址15軒・土坑30基・土壙墓１基、配石墓１基・溝１条と遺構数はやや少ない状況であった。

竪穴住居址はほとんど切り合い関係のない状況で検出され、時期差もあまり認められないことから比較的短い期間に存続した集落址であろうことが推測される。また、土坑については掘立柱建物址の柱穴とも考えられたが、明確なプランを把握するには至らなかった。

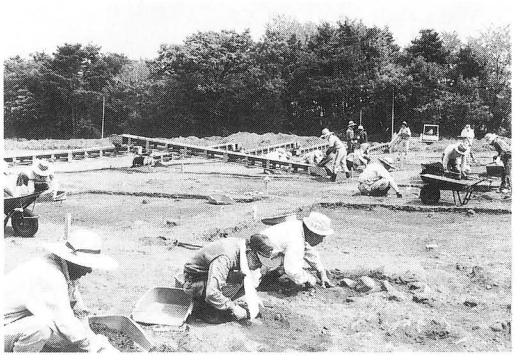
氾濫に伴うであろう砂礫層は調査区縁辺部で検出された。これは一部の竪穴住居址を切るように存在したことから、少なくとも平安時代以降の氾濫に伴う砂礫層であることを確認した。

狐原遺跡からの出土遺物は、平安時代前半期の土師器（甕・坏・皿など）が大半を占め、総点数は約40,000点におよぶ。これらのうちでも特筆すべきは、墨書土器が比較的多く出土していることである。墨書の内容は「関」「鷹」「山中」「西」「百」「今」「午」など多種多様であるが、特に「午」はその文字をマルで囲った「㊍」が数多く出土しており興味深い。

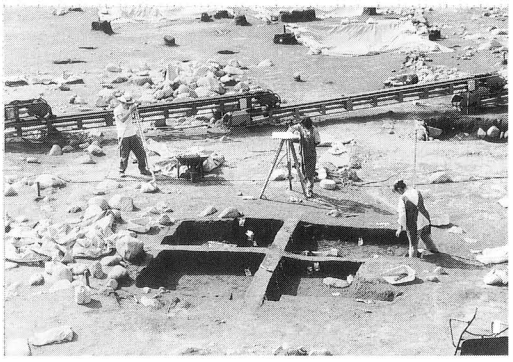
墨書土器のうち最も重要なものは「玉井」と墨書された土師器皿（９世紀半ば）である。この「玉井」とは甲斐国の古代郷名のひとつ「山梨東郡玉井郷」を表すと考えられている。この「玉井」関係の墨書については、本遺跡の北方約500ｍに位置する大原遺跡からも出土した例（「山梨」〈郡〉「玉井郷長…」）があり、本遺跡の出土例と併せて甲斐国における古代の郷配置研究ほかに資するところは大きいものと思われる。



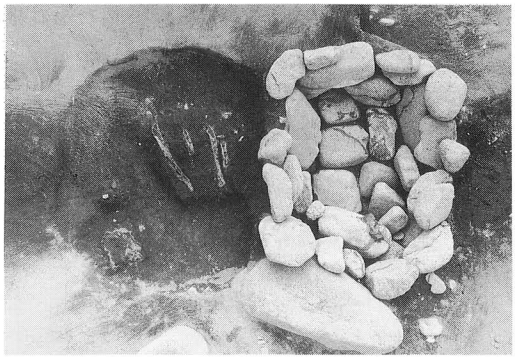
狐原遺跡全体図および墨書土器の出土状況



調査風景（南→）



第13号住居址　調査風景（東→）

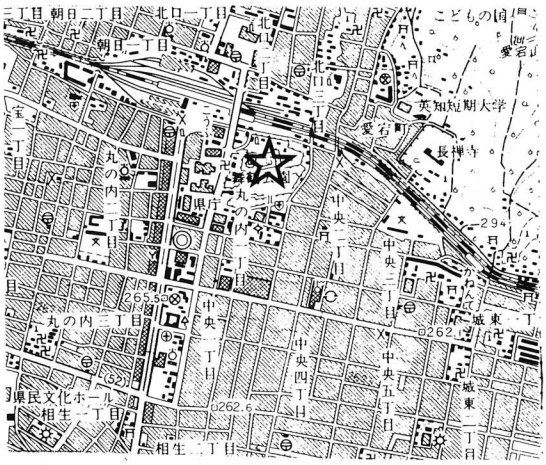


配石墓壙および土壙墓（北→）

調査区全景（北西→奥が金川）

11. 甲府城跡（県指定史跡）

所 在 地　甲府市丸の内１丁目５番地内
事 業 名　舞鶴城公園再整備
調査期間　1994年４月７日～1995年３月31日
調査面積　約7,000㎡
担 当 者　八巻與志夫・柏木秀俊

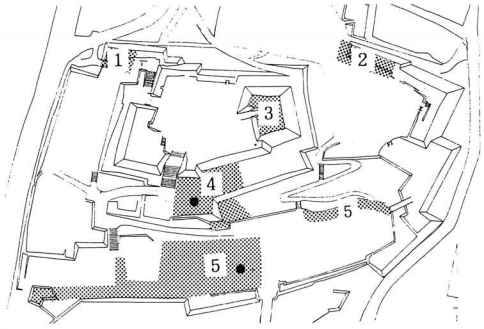


甲府城跡　位置図

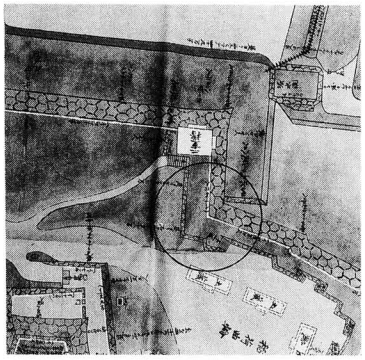
県指定史跡甲府城跡（舞鶴公園）の石垣改修工事に伴う発掘調査は、今年で５年目である。以下調査場所ごとにその概要を述べる。（なお、１月末現在の概要である。）

松陰門は本丸と屋形曲輪を結ぶ門で、現在の公園の北西に位置する。昨年度から改修予定石垣の天端調査は着手していたが、後世の積み替え（間知石垣）の時の攪乱を著しく受けている。石垣解体工事を中断して行った根石調査で、西面から北西隅部分にかけて、積み直された間知石垣の裏から穴太積み石垣を検出した。この古い石垣の勾配は現状よりきつく、２～３分勾配であるので、復元工事ではこの勾配を採用した。南面の根石調査では現状の地表より１m程下に西傾斜の地山を確認したが、石垣は地山の傾斜に沿って根石を据えていた。稲荷曲輪東側で県立青少年科学センター北側の腰石垣の根石及び天端調査では、曲輪東側は黄色粘土による盛土で形成されており、この盛土を基礎にして腰石垣が積まれている。現状の腰石垣天端には、南側（曲輪側）に礎石が等間隔に並んでいることも確認された。天端幅は６mと広く、多門櫓が存在したことが考えられるが、絵図には記されていない。間知石垣によって埋め殺された隅が北側に見られる場所から、古い石垣が検出され、江戸中期の絵図が記される以前に虎口があったことが明らかとなった。天守台天端及び穴蔵の石垣改修に伴う調査では、穴蔵にある鉄塔基礎の深さが2.5mと深くまで攪乱されていた。穴蔵入り口の南側石垣の中央には、埋め殺された隅があるが、この隅石垣が石垣の中を５m以上南に延びていることを確認した。天守曲輪南側石垣の改修工事に伴う調査では、曲輪面の地中より４m間隔に仕切りあるいは支持盤の目的で築かれたと考えられる石垣を検出した。この石垣は曲輪を形成する石垣に直行する方向で、地山の傾斜に沿って根石を据えて積まれている。また、腰石垣は地表から３m下まで確認された。地中から検出された石垣は他城では例がなく昨年度本丸調査で北西の地中から検出したものと同様なものと思われる。鍛冶曲輪の西に位置する鍛冶曲輪門の石垣調査では、天端の土壙から人骨が検出された。門の両袖にあたる腰石垣の解体では、裏栗層の中から五輪塔や宝篋印塔などが出土している。鍛冶曲輪の調査では、絵図に描かれている米蔵基礎とともに明治９年に造られた勧業試験場の基礎も検出した。さらにこれらの基礎の東側では、石組み井戸と樽を使った浄化施設及び井桁に組まれた地中梁を検出した。

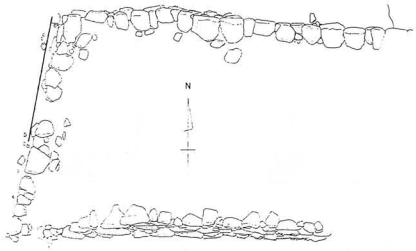
平成６年度調査位置図



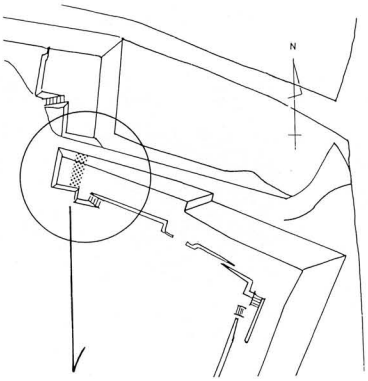
１松陰門付近　２稲荷曲輪北腰石垣
３天守台　４天守曲輪　５鍛冶曲輪



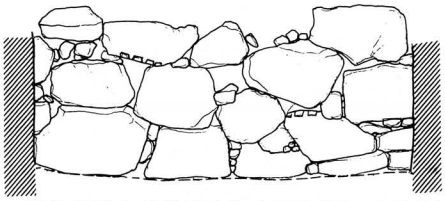
２稲荷曲輪「楽只堂年録」



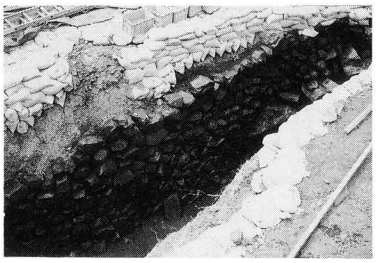
１松陰門石垣新・旧根石平面図（Ｓ＝1/400）



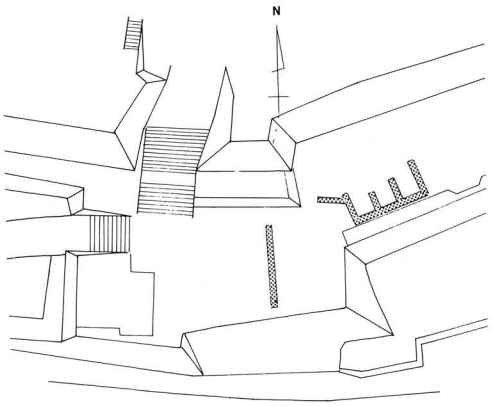
３天守台の埋め殺された出隅



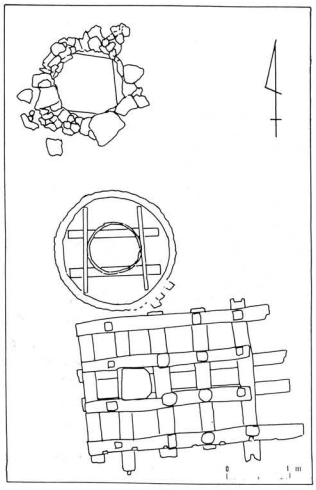
２稲荷曲輪より検出された石垣（Ｓ＝1/100）



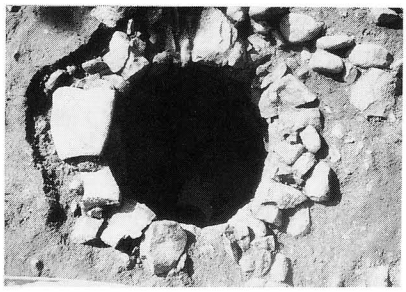
４天守曲輪地中石垣



４天守曲輪地中石垣位置図

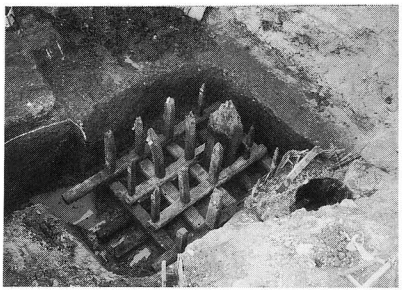


5 鍛冶曲輪　遺構位置図

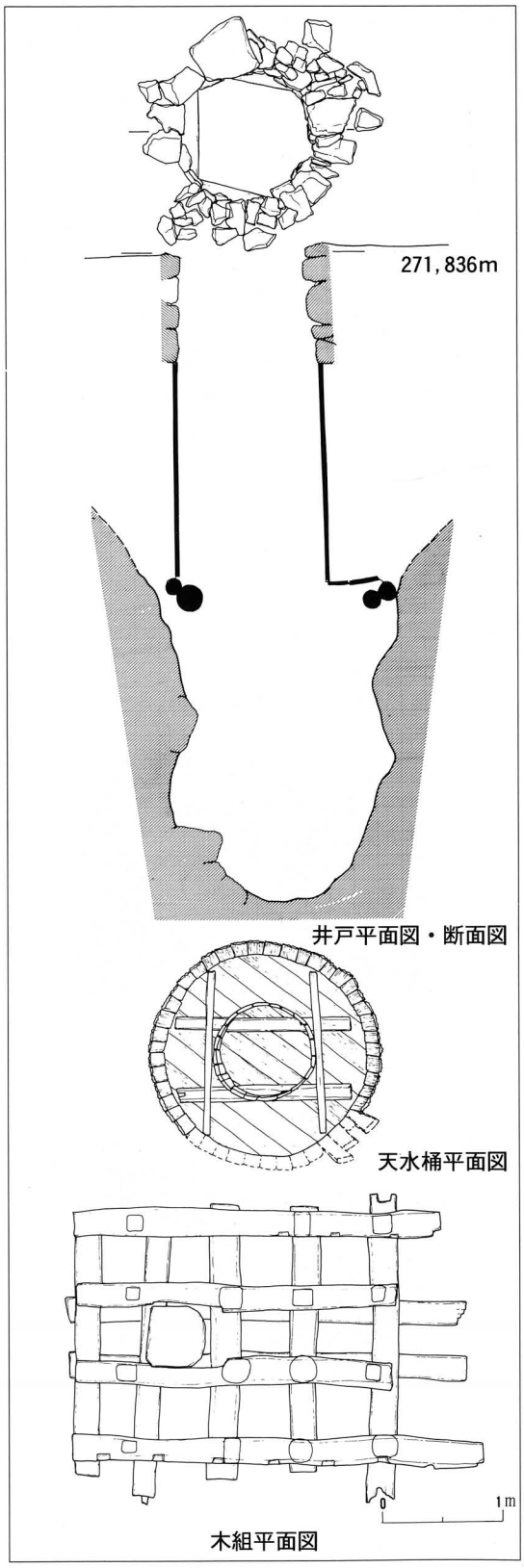


鍛冶曲輪より検出された井戸

鍛冶曲輪より検出された天水桶

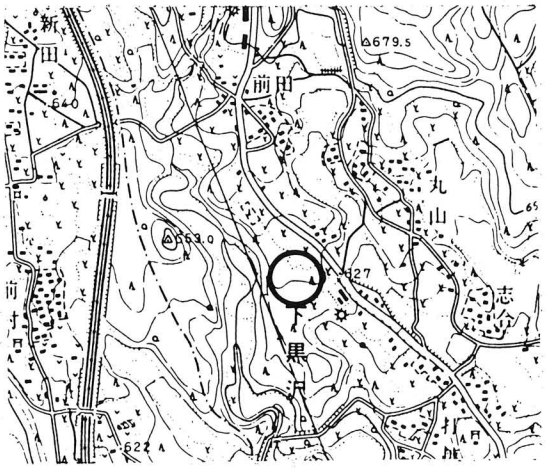


鍛冶曲輪より検出された木組



12. 日影田遺跡（ひかげだ）

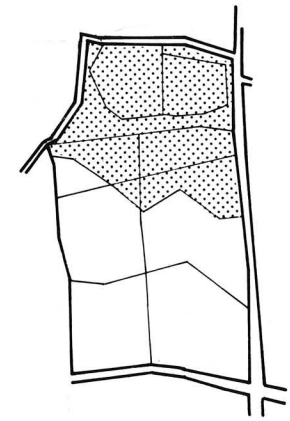
所 在 地　北巨摩郡高根町下黒沢2301外
事 業 名　県営高根南団地建設
調査期間　1994年４月27日～７月29日
調査面積　3,000㎡
担 当 者　山本茂樹・野代幸和

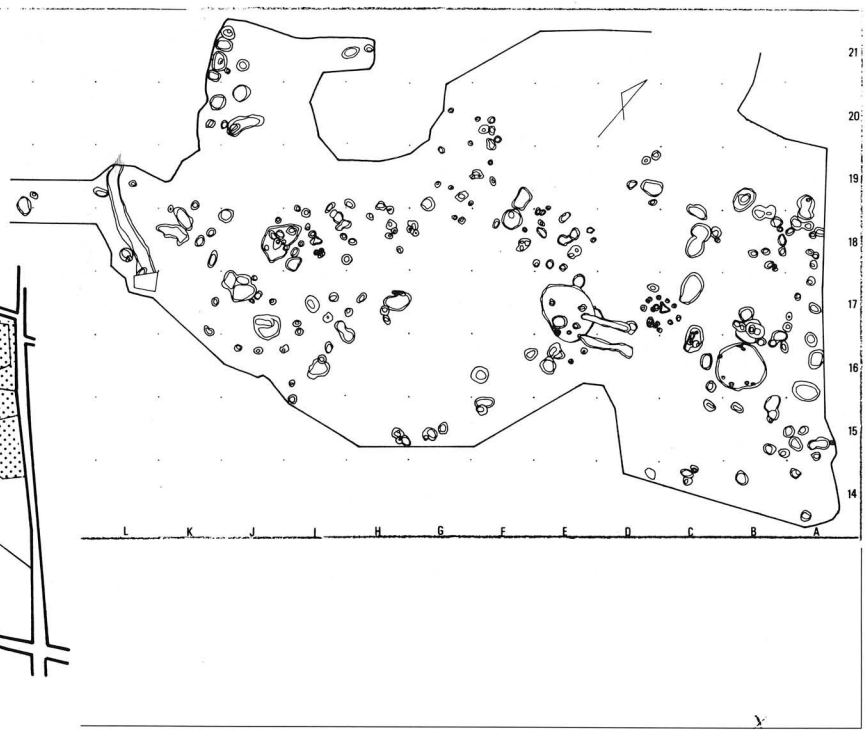


日影田遺跡　位置図

本年度は昨年度調査を実施した部分の北西側にあたる約3,000㎡が調査対象面積である。

発掘調査において発見された遺構の内訳は、以下のとおりである。縄文時代中期初頭段階の住居跡１軒、ほぼ住居跡と同時期と考えられる炉跡４基（この内２基については住居跡の可能性がある）、縄文時代前期末葉～中期中葉段階に位置付けられる土坑99基、Pit群２基、平安時代と考えられる柱穴列２基、中世（室町時代）の溝１条、近世の畝状遺構２基が確認できた。遺物では、縄文時代前期～後期までの土器、石器が500点、平安時代の墨書土器、室町時代土師質土器、近世ではキセルの吸い口部分などが出土した。本遺跡の場合、住居跡が少なく炉跡や土坑を主体とすることから、その性格は定住を主としない、キャンプサイト的な在り方が指摘できるようである。

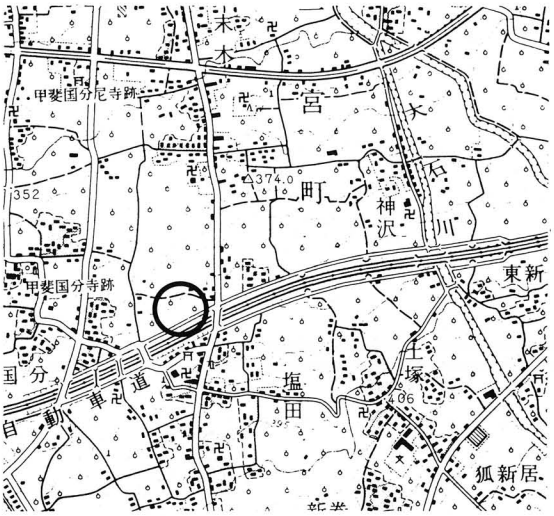

調査区位置図



日影田遺跡全体図（S＝1/600）

13. 北中原遺跡（きたなかはら）

所 在 地　東八代郡一宮町塩田字北中原585外
事 業 名　県営一宮団地増設
調査期間　1994年４月17日～12月27日
調査面積　5,000㎡
担 当 者　出月洋文・澤登正仁



北中原遺跡　位置図

北中原遺跡がある一宮町は、甲府盆地北東部・中央部を北東部から南西に走る御坂山地の北側に位置し、秩父山地を源流とする笛吹川に流れ込む日川・御手洗川・金川などによって、国内有数の複合扇状地が形成されている。北中原遺跡は、これらの扇状地のほぼ扇央部に位置している。標高は約377m前後である。遺跡周辺は、桃や葡萄の果樹栽培地と宅地になっている。

先行工事が予定されていた約1,000㎡の部分については、前年度に調査を終了している（『年報10』参照）。残りを今年度調査対象域として発掘を行い、２年次にわたる調査を終了した。なお、本年度調査は建物本体の建設や付属施設建設のための工事区域の確保や車両の出入りなどのため、調査区が細分され、遺構の把握や計画的な現場運営などに困難をともなった。

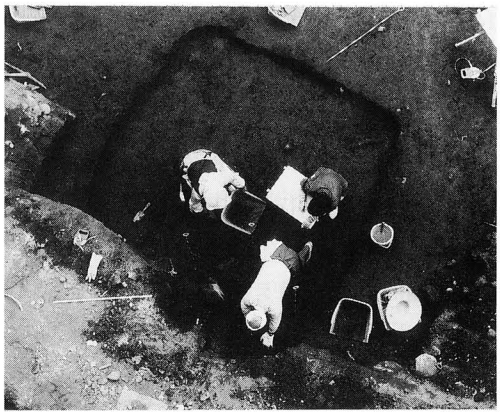
調査の結果以下のような遺構と遺物を確認した。縄文土器や打製品石斧などを包含する層があり、縄文時代前期後半から中期前半代にあたる資料が出土した。特に数多く確認できた遺構は９世紀前半から11世紀前半に至るまでの竪穴住居跡で、今年度は57軒を確認することができた。さらに上記の平安時代の住居を切る状態で確認した土坑105基、中世のものと思われる道路状特殊遺構１本、平安時代より新しい溝５条・竪穴状遺構１基などが確認された。

遺物としては主に住居跡にともなって土師器の坏・皿・甕・羽釜・脚高高台付坏などが出土した。その他には、須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦・鉄器・砥石・銭貨・中世以降の陶磁器などが見つかった。転用硯については須恵器甕の破片を利用したものの他灰釉陶器を使用している例などがあった。墨書土器も確認できた。さらに焼失住居２軒と数基の土坑については、遺構内の土を浮遊水洗選別法で分析をした。

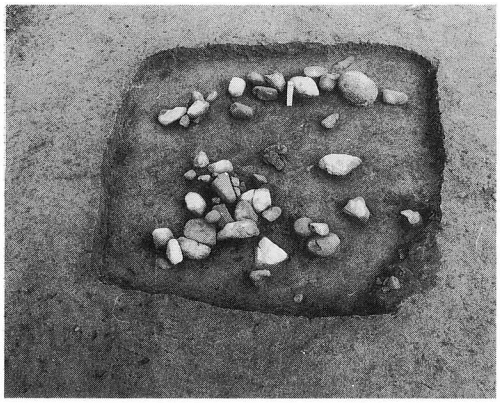
遺構全体を一見すると、住居群の配列に規則性がある程度見られ、住居のカマドの方向が大部分南東コーナー付近もしくは北東コーナーにあり、カマドの構築材に瓦がわずかながら使われている住居があるなど、北中原遺跡が集落として活動していた時の性格を窺わせるものがある。

今後、遺構・遺物の整理の進展により、周辺の北堀遺跡・笠木地蔵遺跡・東新居遺跡の既に発掘調査され成果が公表されている古代集落遺跡とともに、北中原遺跡も古代甲斐国分寺周辺の歴史を知る重要な資料のひとつになるであろう。

建設中の建物と発掘風景

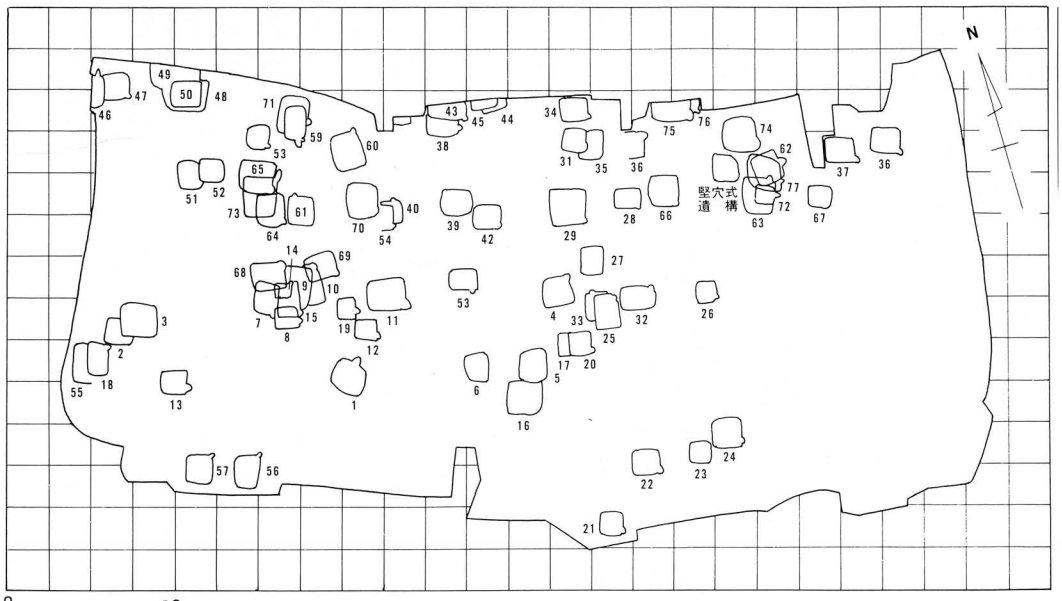


53号住居発掘およびカマド実測風景



58号住居内礫廃棄状況

24号住居土師器・灰釉陶器（転用硯）出土状況



北中原遺跡全体図（数字は住居番号）

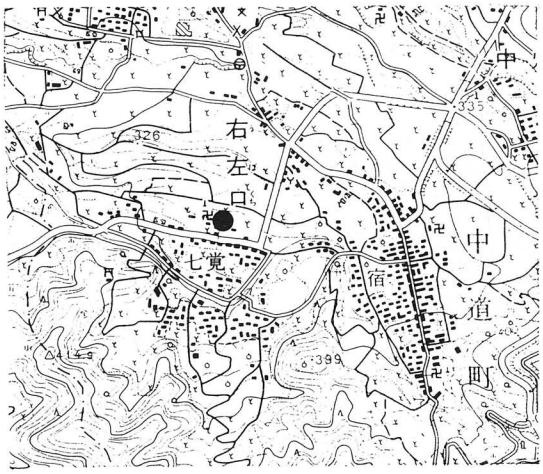
14. 古代官衙・寺院跡詳細分布調査

所 在 地　①東八代郡中道町右左口字七覚4094外（北守順真住職）円楽寺
②東八代郡御坂町成田字南畑632外（山下営氏所有）横畑遺跡

調査期間　1994年11月10日～12月８日
①11月10日～11月14日
②11月21日～12月８日

調査面積　①21㎡　②95㎡

担 当 者　村石眞澄・大谷満水



円楽寺　位置図

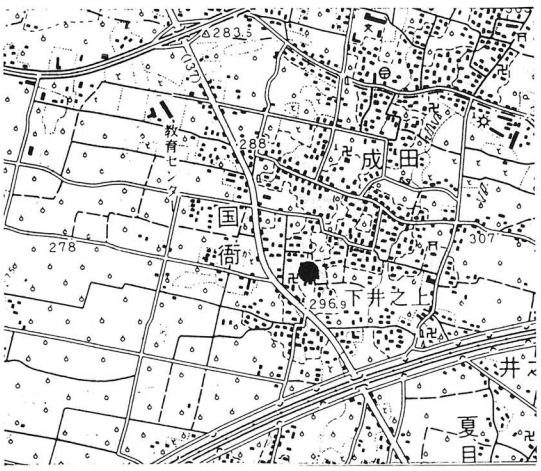
本年度は５ヶ年計画のうちの最終年にあたり、下記２ヶ所の試掘・確認調査と併せて報告書の刊行を行った。

①円楽寺

円楽寺は、『甲斐国社記寺記』および『甲斐国志』によると大宝元年（701）役行者小角により創建されたとしている。天正10年（1582）織田信長に焼き討ちにあうまでは、頭塔三塔三十二坊という壮大な景観を持っていた。本堂には、延慶２年（1309）銘のある役行者の木像が安置されている。

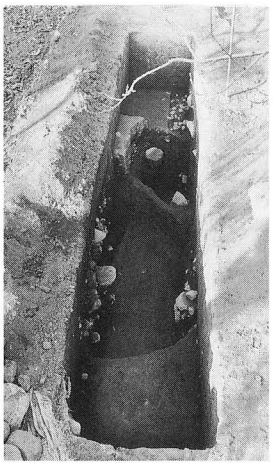
本寺は、1990年の踏査のおり、布目瓦が採集されている。今回の調査では、本堂の西側に広がる丘陵の南側の緩斜面にある畑の中に２本のトレンチを入れた。いずれのトレンチも表土から70㎝程度で大礫を含む硬くしまった地山となるが、すぐ上には焼土粒と炭化粒を比較的多く含む層が広がっており、この層の中から中世の常滑を主体として古墳時代の須恵器・土師器などが出土した。平安時代と考えられる遺物は、ごく断片的なものがほとんどである。今回の調査では布目瓦の出土はなく、遺構は検出されなかった。

円楽寺　発掘調査風景

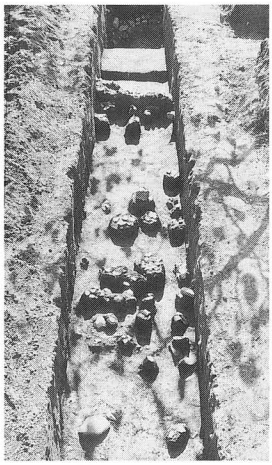


横畑遺跡　位置図

横畑遺跡　発掘調査風景

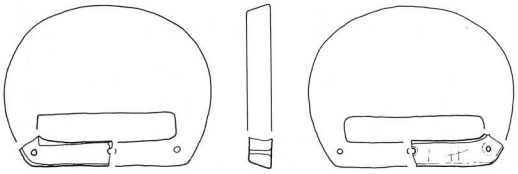


第１トレンチ



第２トレンチ

第４トレンチ　石組遺構



石製丸鞆（Ｓ＝1/2）

②横畑（よこばたけ）遺跡

古くより「国衙」の地名から国衙推定地とされながら、発掘調査のメスが入らなかった遺跡である。今回は国衙字堀之内・宮本の東に隣接し土塁跡があったとされる付近を対象とした。立地をみれば、甲府盆地の東部、金川が形成した扇状地の末端の平坦地にあたる。そして南東約500ｍには二之宮・姥塚遺跡と姥塚古墳が存在し、北西には条里型地割りが大きく広がっている。

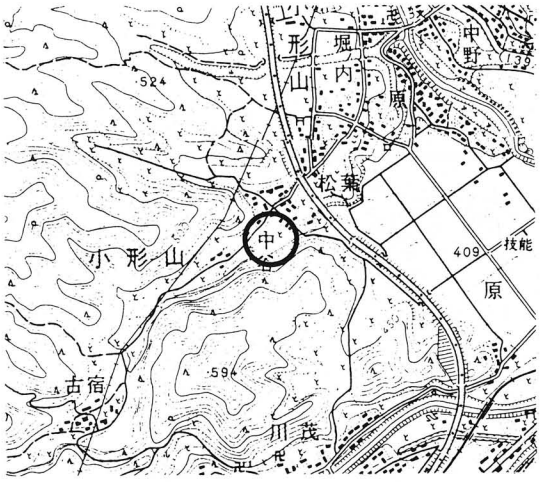
調査は山下氏の屋敷東の桃畑の樹間に第１・２トレンチを、さらに屋敷の南の桃畑に第３～５トレンチを設定した。第１トレンチでは、古墳時代後期の土師器・須恵器と中国産青磁の小片１点などが出土し、１ｍ前後の深い土坑２基を確認した。また第２トレンチからは、主に古墳時代後期に属する土師器・須恵器などが多く出土し、重複した同時代の住居跡２軒を確認した。

第３トレンチでは、浅い溝らしき遺構から石製丸鞆（銙帯の装飾具）と思われる断片と、中世に属する石擂鉢の底部破片が出土した。また第４トレンチの北端から、土坑状の掘り込みの中に積まれた石組を確認したが、これに伴う遺物はなく所属時期は明らかでない。

今回の調査では、古墳時代では後期の遺構や遺物を中心に若干の中期の遺物が認められ、二之宮・姥塚遺跡に連なる集落跡が広がっていることを確認した。しかし、国衙の存在を直接に証拠づけるものは認められなかった。とはいえ、第４トレンチの石組遺構をはじめとして、ピットを中心とした約20基の遺構の存在や有位の官人に結びつく可能性の高い石製丸鞆の出土など注目点も多く、今後の継続的な調査が望まれる。

15. 中谷遺跡（なかや）

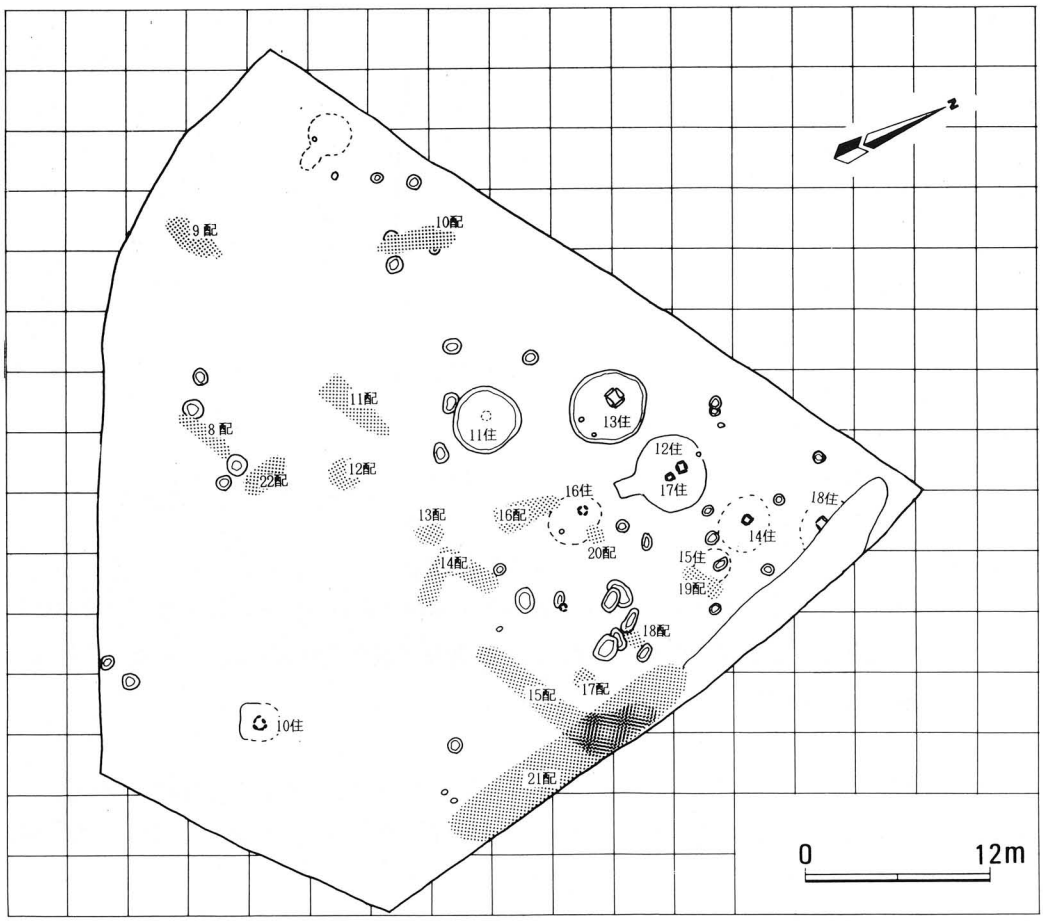
所 在 地　都留市小形山瀬木2335－１外
事 業 名　リニア山梨新実験線建設
調査期間　1994年４月14日～８月24日
調査面積　1,000㎡
担 当 者　長沢宏昌・高橋みゆき



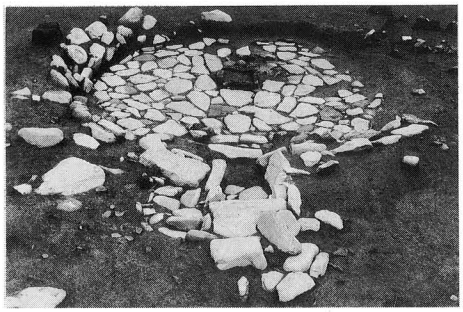
中谷遺跡　位置図

遺跡は、都留市小形山地区の南側を西から東へ流れる高川の左岸に位置し、標高420mを測る。リニアモーターカー山梨新実験線建設事業に伴い、昨年度から実施され、今年度は２年次の発掘調査となる。調査面積は昨年度の残り部分2,500㎡で、一部、昨年度の調査範囲と重複するが、調査区全体の東側半分弱にあたる。中谷遺跡は過去、中央自動車道建設など３回の調査がおこなわれ、縄文時代後・晩期の集落として知られている。

今年度の調査では、住居跡７軒（竪穴住居跡１軒・敷石住居跡が２軒・石囲い炉のみ確認できたものが３軒・縁石が円形に巡るが炉がはっきりしなかったもの１軒）が確認できている。この他、土坑が25基、集石土坑が15基、配石遺構が15基、屋外炉が１基、埋甕１基、中世の溝状遺構が１条、近世墓３基、時期不明のピット数十基が確認できた。また、遺物は縄文時代中期末の曽利式及び加曽利Ｅ式土器が中心で、若干、後期の堀之内式を含んでいる。住居跡は昨年度調査されたものより残存状況が悪く、遺物の集中によってその範囲を推定する場合が多いが、その中でも13号住居跡は、残存状況が良好な焼失家屋で覆土中から床面まで焼土と炭化材が多くみられた。曽利Ⅱ式期に位置付けられ、入口部に埋甕をもつ。また、12号住居跡は柄鏡形敷石住居で、人頭大の大礫を縁石として巡らせ、階段状の入口部という特徴的な張出部をもっている。この張出部の左側外には、半円径に礫が配されていた。この空間は物を置く場所とも、作業場ともいわれているが性格は明らかではない。この住居跡は、主軸がほぼ南北を示すが、居住部の北西側には、獣骨や炭化材が集中していた。土をサンプリングして水洗選別をおこなったところクルミ等の堅果類が多く発見された。また、居住部と張出部の連結する付近には、曽利Ⅴ式土器が数個体つぶれた状態で出土しており、その横には、石棒が横たわっていた。この他、特徴として集石土坑もあげられる。時期は遺物が殆ど含まれていないため不明だが、すり鉢状の掘込みに平らな礫を敷き、さらに拳大以上の礫をすきまなくつめこんでいる。かなり強い火をうけていたらしく、土坑の壁面も礫自体も良く焼けていた。調査区の東端に沿って約２×20mの範囲で確認された配石遺構は、部分的に方形に礫を配置したり、所々、立石の痕跡が窺える。この配石遺構の北東端と中心付近から曽利(4)式の深鉢が出土しており、前者は横位、後者は正位である。しかし、配石内から出土している土器と時期的に差が生じており、これらが配石遺構に伴うものかどうか検討が必要である。



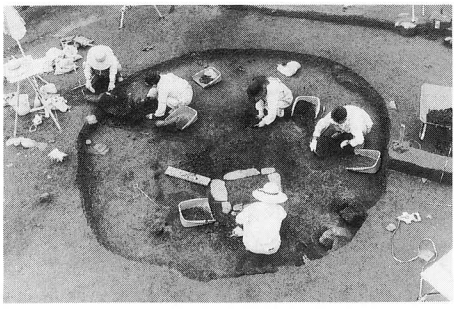
中谷遺跡　全体図



12号住居跡　検出状況

9号集石土坑　半截状況

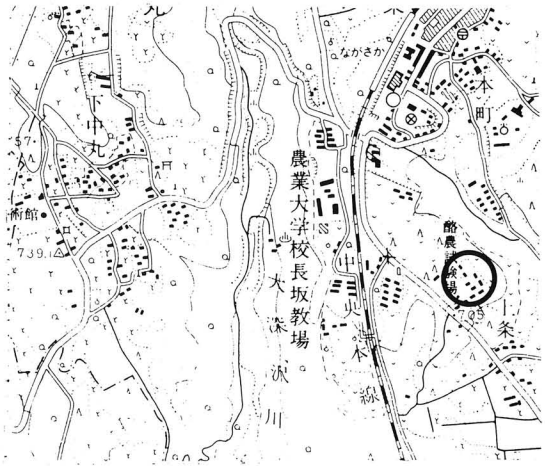
21号配石土器　出土状況



13号住居跡　調査風景

16. 酒呑場遺跡（さけのみば）

所 在 地　北巨摩郡長坂町長坂上条621－２外
事 業 名　酪農試験場改築
調査期間　1994年９月１日～12月28日
調査面積　1,300㎡
担 当 者　山本茂樹・野代幸和
　　森原明廣・宮里学



酒呑場遺跡　位置図

遺跡はＪＲ中央線の長坂駅の南1.25㎞の県道沿い、大深沢川と宮川とに挟まれた舌状台地上の標高690～710m付近に位置している。本調査地点は、昭和15年に調査された地点より約300m北側に位置している。

本年度は、本館建設予定地など約1,300㎡が調査対象面積である。調査区は大きく２箇所に別れているため、本館予定地をＡ区、車庫・格納庫現場管理棟予定地をＢ区とした。発掘調査において発見された遺構・遺物の内訳は以下のとおりである。

〔Ａ区〕

縄文時代前期後半段階の住居跡４軒、中期後半段階の住居跡15軒、後期前半１軒、前期後半～中期後半段階に位置づけられる土坑（墓など用途の分かるものも含む）370基以上、Ｐｉｔ群３箇所、前期後半～後期前半段階と考えられる配石墓７基が発見できた。

遺物では、縄文時代前期～後期までの土器多数（深鉢、浅鉢、小型鉢など）、石器各種（打製石斧、磨製石斧、石鏃、石匙、石錐、礫器、スクレッパー、凹石、磨石、石皿、砥石など）数百点。特殊なものでは、小型磨製石斧、翡翠製垂飾（ペンダント）１点ほか玉２点、石棒１点、土偶数点、小型赤彩土器、骨片、炭化物（ドングリ、クルミほか）が出土した。また確認したのは１片だが、平安時代の土師器片が出土している。このことは、周辺に該期の遺構が存在する可能性を示すものだろう。

〔Ｂ区〕

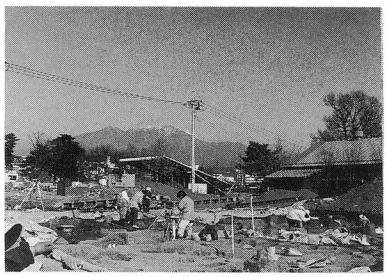
縄文時代前期後半の住居跡３軒、中期後半の住居跡17軒、前期後半～中期後半段階に位置づけられる土坑285基、野外埋甕４基、焼土跡３基、配石遺構１基が発見できた。

遺物では、縄文時代前期～後期までの土器多数（深鉢、浅鉢、小型鉢など）、石器各種（Ａ区と同様）数百点。特殊なものでは、翡翠製玉未加工品１点、石棒１点、耳飾２点、土偶２点、土製円盤１点、骨片などが出土した。

調査の結果、大きく３期にわたる文化の遺構が高密度で発見できたことから、本地域においても古くから継続的に長期にわたって生活が営まれていたことが明らかとなった。また発見された遺構の種類からは、居住域と墓域が一体となった、かなり大規模な集落構成が確認できた。これらのことから、本県でも有数の規模を誇る遺跡であるものと考えられる。

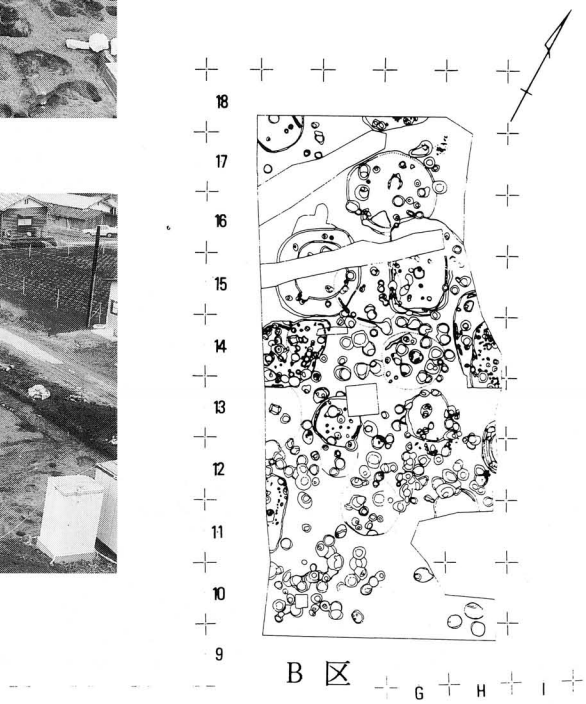
A区　完掘状況

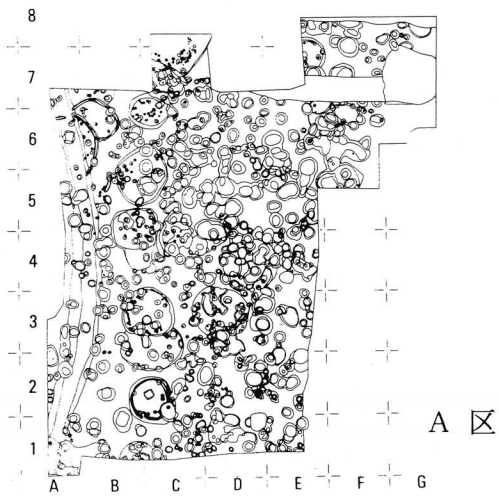
B区　完掘状況



調査風景

A区　雪景色

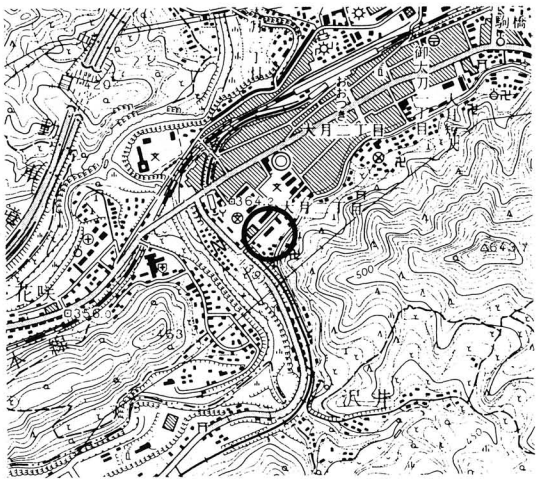




酒呑場遺跡　全体図（S＝1/500）

17. 大月遺跡（おおつき）

所 在 地　大月市大月２丁目11－20
事 業 名　県立都留高校体育館建設
調査期間　1994年９月13日～1995年１月17日
調査面積　3,200㎡
担 当 者　長沢宏昌・高橋みゆき



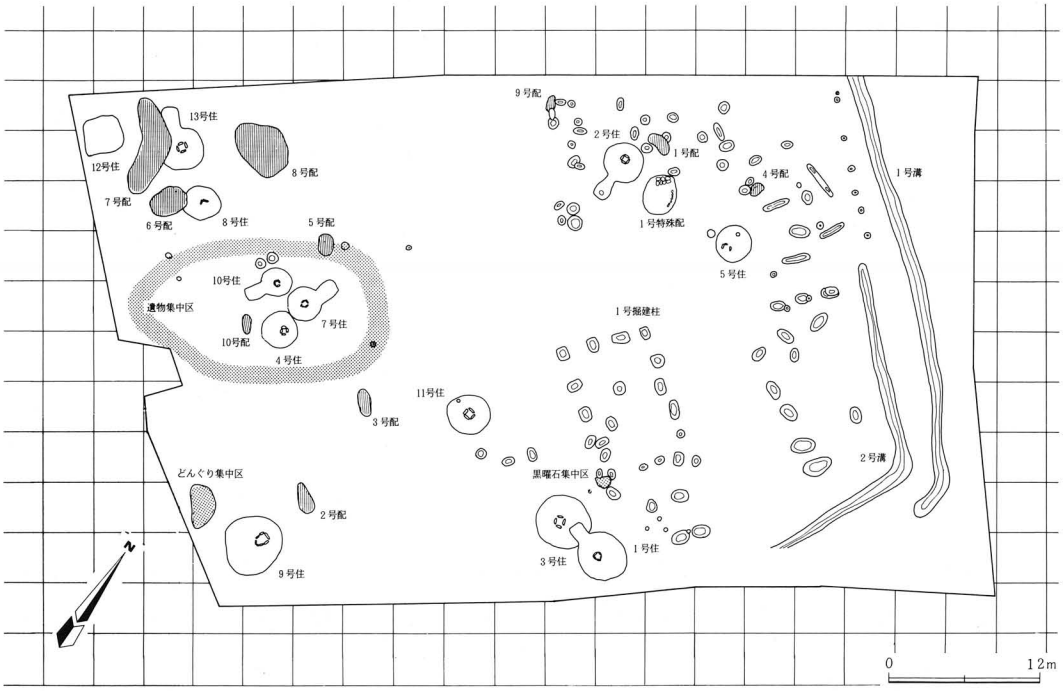
大月遺跡　位置図

大月遺跡は桂川と笹子川との合流点に近い桂川右岸の河岸段丘上、標高366mに位置している。遺跡の周辺は、古くから発掘調査がおこなわれ、縄文時代の遺物が多く出土している。今回は、県立都留高等学校体育館建設事業に伴い1994年９月から試掘調査を行った。その結果、２軒の敷石住居跡を検出したため、10月から継続して本調査を実施した。調査区は、50mのプール跡地で、地表面から１mほどの盛土をしていたため、基礎工事が縄文時代の文化層まで届かず、遺跡の保存状態は良好であった。

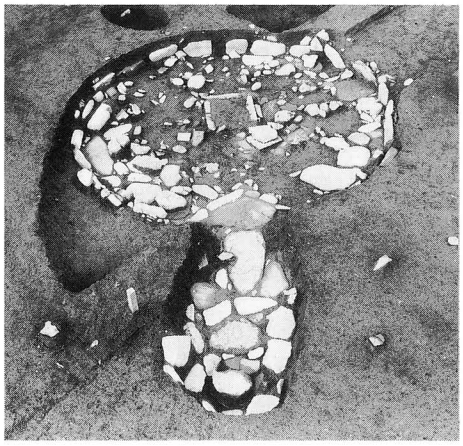
調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡１軒、敷石住居跡６軒、石囲い炉が４基、合計11軒の住居跡が発見された。この他、配石遺構が10基、磨石や小円礫を用いた特殊配石遺構が１基、集石が２基、平安時代の溝状遺構２条、縄文時代の土坑５基、平安時代の土坑75基が確認された。平安時代の土坑群の中には、掘建て柱建物址１棟が含まれている。

調査された敷石住居跡のうち、４軒の柄鏡形敷石住居跡は、張り出し部や居住部の構造に統一性がみられず、バリエーションに富んでいる。なかでも７号住居跡は、張り出し部分だけを見れば石棺墓のようにみえるだけでなく、居住部と張り出し部との連結部の両側に石が立てられていた。これは、人間が横になって通る幅ほどもなく、極めて非実用的と言わざるを得ない。また、13号住居跡では、張り出し部が立体的な構造をしており、入口部については階段状になっている。また、当遺跡の特徴として、確認された11軒の住居跡のうち９軒の石囲い炉の石材に溶岩あるいは多孔質の礫を使用することがあげられる。県内の同じ時期の敷石住居跡をみても、溶岩を使用する例は稀であり、先に調査された都留市中谷遺跡においても同様の現象がみられることから、県東部（郡内地域）の特徴と考えられる。

遺物は、１・２号住居跡から加曽利ＥⅣ式の、11号住居跡からは曽利Ⅴ式の埋甕が出土しており、縄文時代中期末の甲府盆地と関東地方との接点としての性格が浮かんでくる。その他にも、曽利Ⅱ式～加曽利Ｂ式まで幅広い範囲の土器が出土している。特に、調査区西側には、ほぼ16グリッドにわたる土器集中区があり、今回の調査全体の三分の一程の遺物が出土している。縄文土器以外にも、包含層や土坑から少量の須恵器や土師器の破片が出土している。この他、２号住居跡から炭化した栗や獣骨が、９号住居跡の西側では、円形や長楕円形の炭化したドングリが多量に出土している。

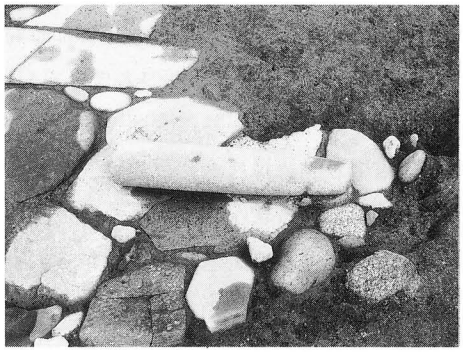


大月遺跡　全体図



2号住居跡　検出状況

7・10号住居跡　検出状況

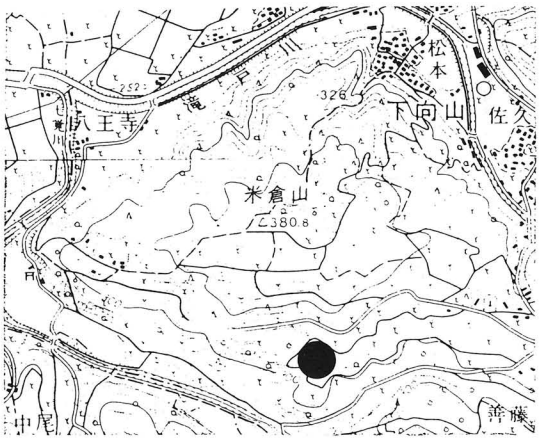


1号住居跡　検出状況

大月遺跡　見学会風景

18. 米倉山（こめぐらやま）B遺跡（くちゃあ塚古墳）

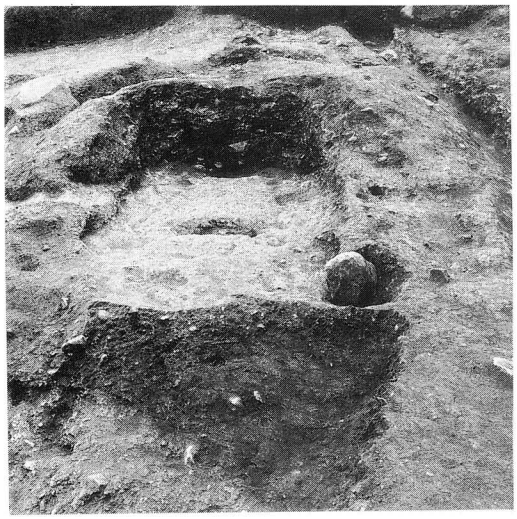
所 在 地　東八代郡中道町下向山字米倉
　　3911－6外
事 業 名　米倉山ニュータウン整備
調査期間　1994年4月18日～6月7日
調査面積　314㎡
担 当 者　坂本美夫・石神孝子



米倉山B遺跡　位置図

本墳の名称の“くちゃあ塚古墳”（口開塚？）は、付近の古老から地元で“くちゃあ塚”と呼ばれていたことがわかったため、これを古墳名としたものである。米倉山の南東斜面の標高320m付近に所在し、米倉山B遺跡より南西1㎞程に位置する。やや急な斜面に造られた直径6m程の円墳で、石室は主軸を斜面と同方向にとり、南に開口している。

本年度の調査は昨年度に終了できなかった墳端の確認を行い、古墳の規模を推定すること、それから墳丘、石室、断面などの実測図を作成するのが主体である。墳端の調査は、石室正面において側壁から左右に1～2段の石積みが墳形に沿って長さ2m前後にわたり巡らされており、それから先も石積みにかわり、僅かであるが地山に変換点を持つような掘削が認められ、ここを墳端とすることができるものと思われる。これが周溝と考えられるが、明確な深さは認められなかった。なお、東側は水路によって大きく掘削されて原型をとどめていない。石室は胴張りの無袖型横穴式石室で、全長4.2m、奥壁幅0.8m、中央部幅1m、羨門幅0.7mほどを測る。天井石は架かった状態のものはなく、石室内に落下していた。ただし、奥壁と接する側壁の上部に天井石の下端を受け止めたような石組の状況が確認され、これから石室は1.8m程の高さであったことが確認できた。奥壁は2段、側壁は6～7段の石積みで構築されている。床は直径10㎝ほどの比較的小振りな石で敷石とする。羨門部には、幅いっぱいで閉塞石が2～3段に積み込まれ、これから約1mほど奥まった所には直径50㎝前後の石2個を並び立てた仕切り石が見られる。石室は地山をほぼ長方形に掘込み構築されているが、斜面のため奥壁側の掘り込みが特に深い。奥・側壁の裏側に控え積みの石詰めはほとんど無く、版築によって壁が保持されている状況が確認された。副葬品には須恵器杯が、奥壁際と閉塞石際付近から出土した以外は確認できなかった。築造年代は須恵器から7世紀後半頃と考えられる。


くちゃあ塚古墳完掘状況

19．八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査

19－1　三ヶ所遺跡範囲確認試掘調査

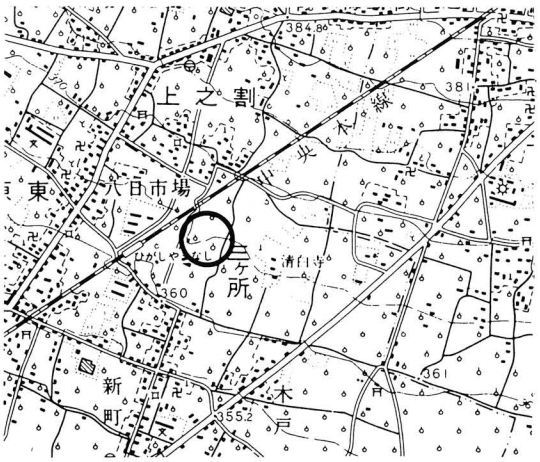
所 在 地　山梨市上の割八王子380・381外

事 業 名　東山梨ぬくもり団地建設

調査期間　1994年９月26日～10月７日

調査面積　1,862㎡（18,000㎡）

担 当 者　高野玄明・橘田重男



三ヶ所遺跡試掘範囲確認試掘調査　位置図

用地買収が完了している予定地において試掘による範囲確認調査を行った。調査区に幅1.5m×長さ13～43mのトレンチを44本設定し、重機により掘削を行った後、作業員の精査による、土層断面観察と遺構・遺物の有無を確認した。土層は、Ⅰ層＝（耕作土）で暗褐色粘質土、Ⅱ層＝黄褐色砂質土、Ⅲ層＝黄褐色砂質土で、Ⅲ層上面が遺構確認面である。遺構は、中央及び中央南端部の７本のトレンチから縄文時代前期末諸磯ｂ式の土器片を伴う土坑や、中・近世の土師質土器を伴う土坑・溝状遺構・柱穴列などが検出されている。調査面積18,000㎡のうち約4,500mの範囲に遺構・遺物が確認されたため、本調査の必要があると判断される。

19－2　双葉町竜地地内試掘調査

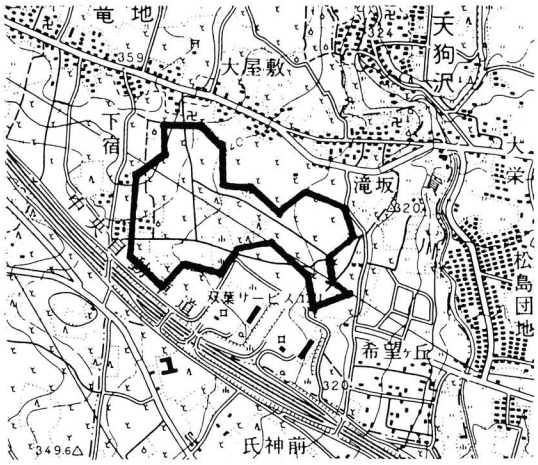
所 在 地　北巨摩郡双葉町竜地字鳥塚・二ツ塚・古氏神地内

事 業 名　山梨県住宅供給公社宅地造成

調査期間　1994年８月11日～９月９日

調査面積　2,777㎡（132,400㎡）

担 当 者　高野玄明・橘田重男



双葉町竜地地内宅地造成試掘調査　位置図

事業面積240,000㎡のうち、今年度は約60％にあたる132,000㎡につき、未買収地を除く部分の試掘調査を行った。調査は、重機により幅1.5m×長さ10～30mの試掘トレンチを161本設定し、土層断面観察と遺構・遺物の有無を確認した。土層は、Ⅰ層＝暗褐色粘質土（耕作土）、Ⅱ層＝暗黒褐色粘質土、Ⅲ層＝黄褐色粘質土・黄褐色礫層が見られる。深さは表土から30㎝前後を測る。今回の調査において、ほとんどのトレンチからは遺構・遺物の検出はできなかったが、わずかながらⅡ層の暗黒褐色粘質土中に小破片であるが、縄文時代中期と思われる土器片が検出されている。遺構の確認はできなかったものの、今年度調査区と未調査区の境界にあたるため、今後遺構などの存在も考えられる。なお、未調査区については来年度行う予定である。

19－3　兄川（あにがわ）ナウマンゾウ試掘調査

所 在 地　山梨市南地内

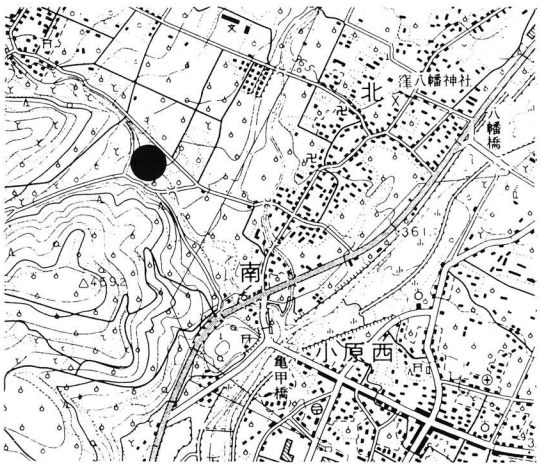
事 業 名　兄川河川改修

調査期間　1994年４月25日～４月27日

　　1994年７月４日～８月31日

調査面積　65㎡

担 当 者　高野政文・五味信吾

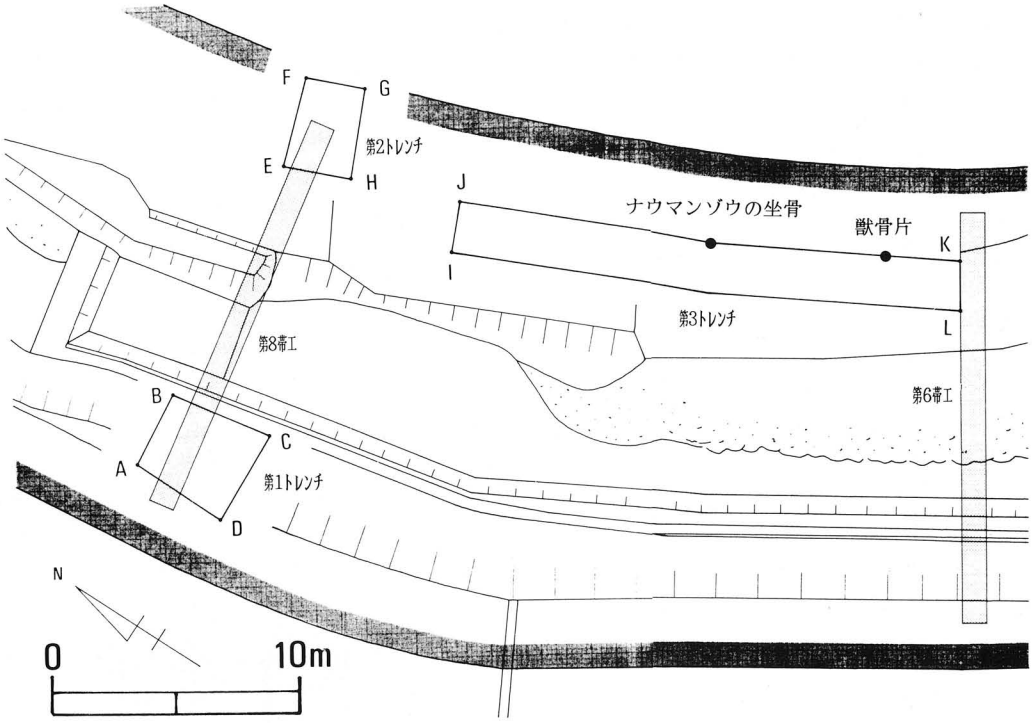


兄川ナウマンゾウ試掘調査　位置図

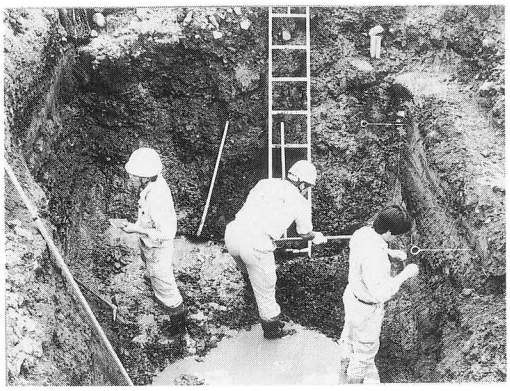
兄川は、甲府盆地の北東部、山梨市と甲府市との境の帯那山・太良峠付近を源とし、山梨市八幡地区を南東方向に流れ、さらに北側を流れる弟川とともに下流に狭い沖積平野を形成して笛吹川と合流する。

1961年７月、この兄川の河床（標高約370mの菊水橋と長窪橋の中間地点）から、台風災害後の河川工事の際、ナウマンゾウの臼歯や肋骨などの化石が発見された。ナウマンゾウの化石の発見はこれが県下初で、現在でも甲府市北部の相川河床において1983年に発見されたものと本例のわずか２例にすぎない。兄川で発見された化石は、現在、山梨市立八幡小学校に保管されている。

今回、1961年の発掘箇所において兄川の河川改修工事が行われることになり、これに伴う発掘調査を実施することになった。調査は帯工と呼ばれる川の堤防の基礎の部分とそれより下流の川の左岸の堤防建設予定地の基礎の部分に３箇所のトレンチを設定し重機掘りの後精査を行った。第１トレンチ（ＡＢＣＤ）は、帯工左岸部分で上部に表土・礫の堆積が約５ｍありその下部から深さ約２ｍ、４ｍ×４ｍの広さで設定した。礫の下に青灰色の粘土層・砂層を、その約60㎝下に暗褐色粘土（植物堆積）層を確認、そこから、木片・胡桃等が検出された。さらにその下の青灰色砂層・礫層の下に暗褐色粘土（植物堆積）層を確認した。しかし、このトレンチからは、ナウマンゾウの化石や人為的な遺物は検出されなかった。第２トレンチ（ＥＦＧＨ）は、表土・礫層の下に深さ約２ｍ、広さ2.5m×3.5mで設定し、暗褐色粘土（植物堆積）層を確認したがやはり化石や遺物は検出されなかった。第３トレンチ（IJKL）は、帯工下流の川の左岸に深さ約２ｍ、広さ２ｍ×20mで設定した。ここでは、側壁の約５ｍの表土・礫の下の土層確認をしながら精査をしていった。この際、大型シカ類等の角を採取した。そして、調査区下流より約３ｍ、河床面下約30㎝の灰茶褐色砂層（１㎝～５㎝大の礫含む）の地点で獣骨片が出土した。さらに、下流より約10m、河床面下約30㎝の青灰色砂礫層の地点でナウマンゾウの坐骨と思われる獣骨が出土した。今回の調査は、ナウマンゾウ化石の出土層準が明確になったことにより、化石の包含層及びその付近の地層確認を行うことによって、甲府盆地の成因や古地理・古環境を知る上での手がかりになると思われる。現在、骨・出土材の^{14}Ｃ年代測定を始め花粉・珪藻・火山灰分析、獣骨の鑑定などの自然科学分析を行っておりさらに詳細な分析結果が得られる予定である。これらのことは、旧石器文化の研究とも関わって、山梨県の考古学史に大きな影響を与えるであろう。

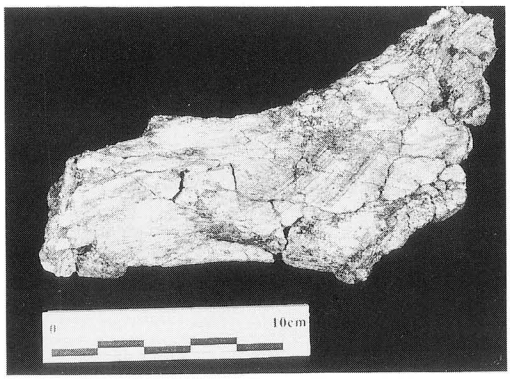


トレンチ設定図

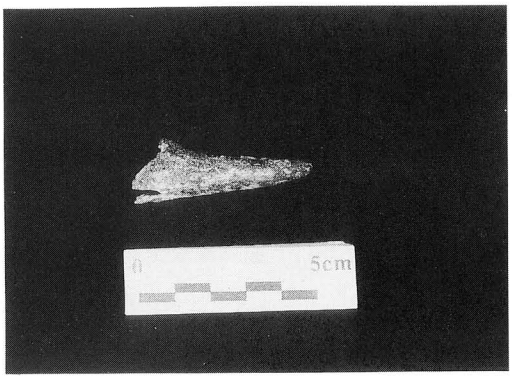


発掘調査風景（第１トレンチ）

発掘調査風景（第３トレンチ）



ナウマンゾウの坐骨



大型シカ類の角

19－4　国道300号線(下部バイパス)試掘調査

所 在 地　西八代郡下部町北川字桑原地内

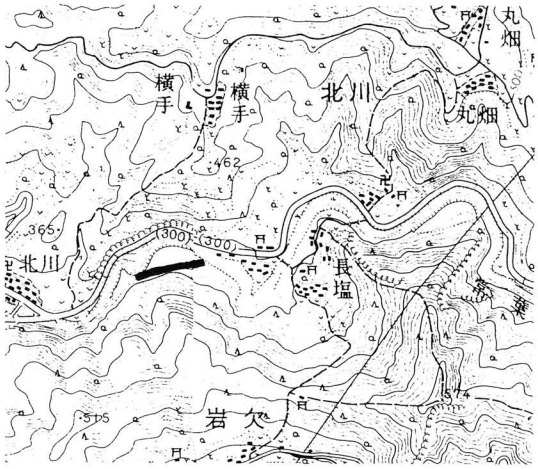
事 業 名　下部バイパス建設

調査期間　1994年6月27日～6月29日

調査面積　78㎡（1,000㎡）

担 当 者　高野政文・五味信吾

調査は、常盤川によって形成された狭い河谷の左岸の河岸段丘状地を行った。調査では、3m×2mのトレンチを各水田に1～3個、合計13箇所設定し、重機が入れないため人力により地山層上部と思われる礫層まで掘り下げたが、遺構・遺物の検出はできなかった。(図版1)



国道300号線(下部バイパス)試掘調査　位置図

19－5　国道141号線（箕輪バイパス）試掘調査

所 在 地　北巨摩郡高根町箕輪地内

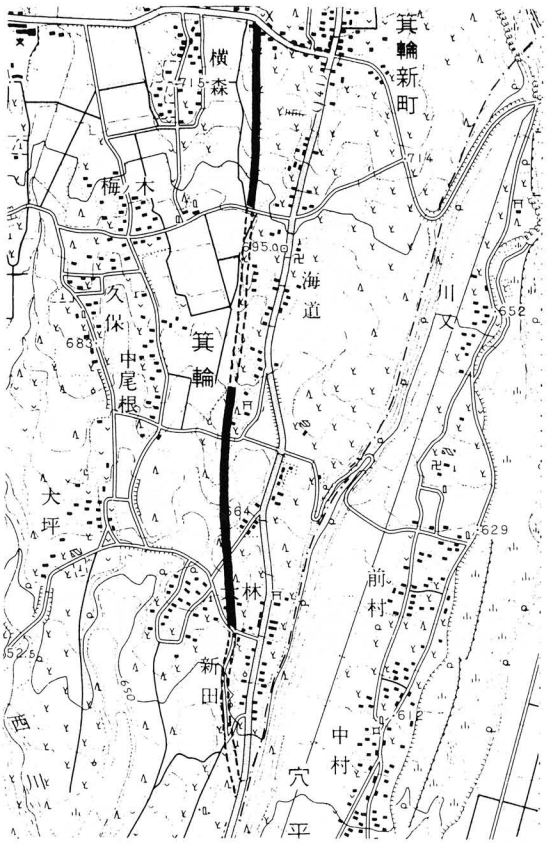
事 業 名　箕輪バイパス建設

調査期間　1994年11月10日～11月25日

調査面積　1,800㎡（40,000㎡）

担 当 者　高野政文・五味信吾

今年度は、昨年度調査地区の南の約2km・40,000㎡について調査を実施した。調査は、重機により41のトレンチを設定し人力により精査を行った。調査の結果、南部の山林とその北で遺構として平安時代と思われる住居址3軒と黒褐色粘土の溝3条、炭焼窯、方形土坑、ピット群などを確認した。遺物としては平安時代の土器数片が出土した。ここは、「大林上遺跡」となっている。さらに、その北の建部神社の西では縄文時代と思われる住居址3軒を確認し、(図版2)、縄文時代中期中葉～後葉と思われる土器多数が出土した。ここは、「海道C遺跡」となっている。



国道141号線(箕輪バイパス)試掘調査　位置図

19－6　甲府工業高校（塩部遺跡）試掘調査

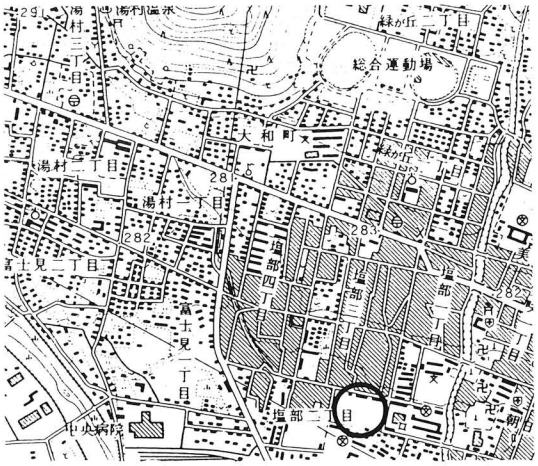
所 在 地　甲府市塩部一丁目２－１

事 業 名　県立甲府工業高校改築

調査期間　1994年10月５日～10月14日

調査面積　560㎡（14,000㎡）

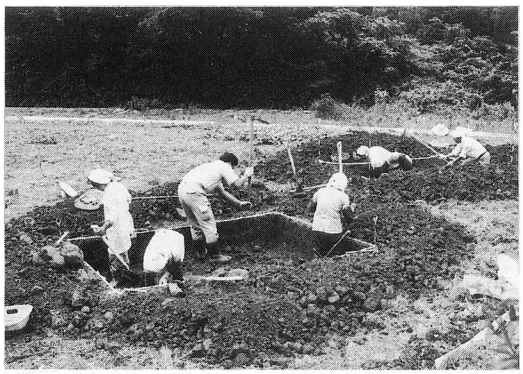
担 当 者　高野政文・五味信吾



甲府工業高校（塩部遺跡）試掘調査　位置図

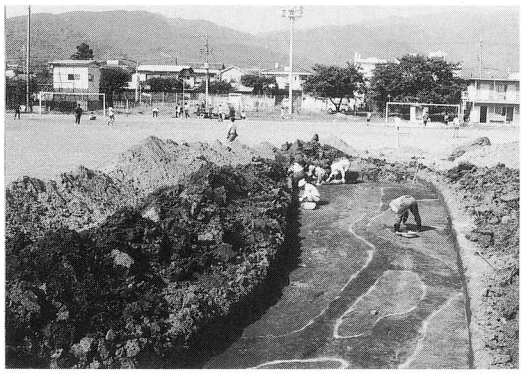
学校施設の改築に伴い甲府工業高校のグランドを試掘調査した。重機により18のトレンチを設定した後人力により精査を行った。

調査の結果、遺構確認面は、比較的浅く地表から50㎝内外の黒褐色粘土層の上面と考えられ、グランド東部に遺構として畦畔と思われる黒褐色粘土層・溝と思われる茶褐色砂層を確認し（図版３）、遺物としても弥生・平安時代と思われる土器が出土した。また、グランド西部には遺構として弥生時代後期と思われる住居址１軒、土坑３基、畝と思われる黒褐色粘土層を確認し、その他焼土、土器片なども検出した。甲府工業高校の北には、「塩部遺跡」の存在が知られており、今回確認された遺跡はこれに連なるものと推定される。

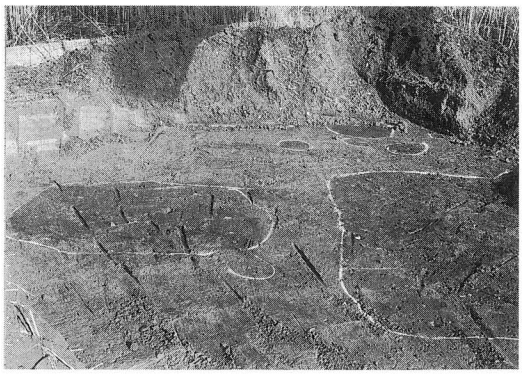


図版１　発掘調査風景

図版２　住居址発掘調査風景



図版３　発掘調査風景



図版４　２・３号住居址

19－7　八田御勅使南工業団地試掘調査

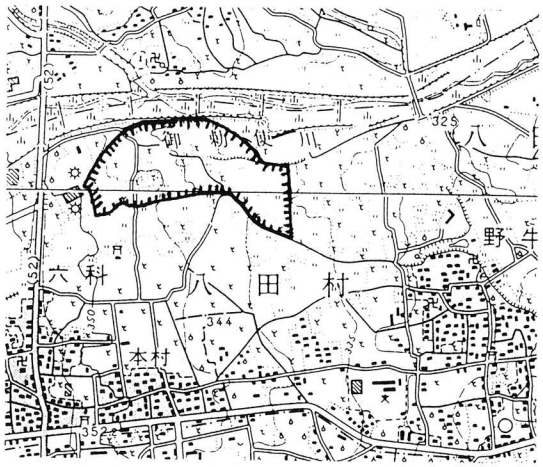
所 在 地　中巨摩郡八田村野牛島地内

事 業 名　八田御勅使南工業団地建設

調査期間　1994年12月21日～1995年１月12日

調査面積　2,000㎡（150,000㎡）

担 当 者　高野政文・五味信吾



八田御勅使南工業団地試掘調査　位置図

調査は、御勅使川の河岸段丘上の遺構確認及び段丘先端の中近世の堤防確認を中心に行った。137箇所のトレンチを設定し、重機で遺構確認面まで掘り下げ精査を行った。

調査の結果、南東部のやや高い地区から住居址８軒（図版４）、溝２条を確認し、遺物として平安時代の土器片が出土した。また、北東部の河岸段丘の縁もやや高く地層は安定しており住居址１軒を確認し、古墳時代と思われる土器片が出土した。堤防と思われる部分は土層は大変しまっているが人為的な遺構は確認できなかった。遺跡名は、小字名から「大塚遺跡」と付されることになる。

※なお、上記の調査の他にも、一宮町内において森林と水のプロムナード（1980㎡）、大泉村地区において県道須玉・八ヶ岳公園線建設（200㎡）、小笠原警察署建設(150㎡）の各事業に関連する試掘立会調査を実施した。

20　桂川流域下水道関連調査

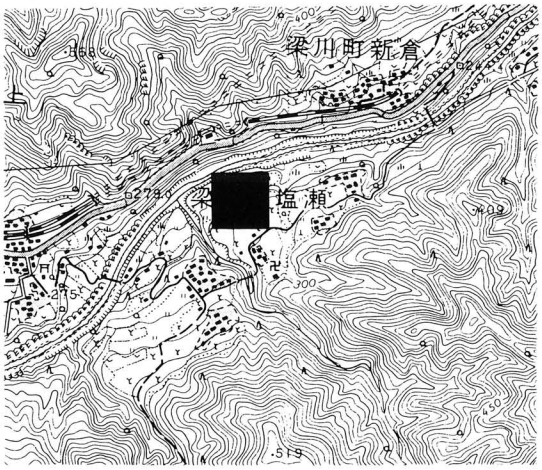
所 在 地　大月市梁川町中野地内

事 業 名　桂川流域下水道終末処理場建設

調査期間　1994年10月24日～12月28日

調査面積　2,700㎡（55,000㎡）

担 当 者　吉岡弘樹・山﨑一良



桂川流域下水道関連調査　位置図

用地買収が進められている予定地の内、調査の承諾が取れている箇所について、約50箇所のトレンチを地形を考慮しながらバックホーを用いできる限り長く設定することとした。

その結果、河岸段丘上段・下段とも全域に渡り、後世の開墾等でソフトローム層に至るまでの遺構・遺物の検出できるような安定した土壌が削平されている部分が多く、遺跡の展開を確認するのは不可能であった。

III　県内の概況

1．調査の件数と状況

発掘調査　今年度の発掘調査件数は132件となっており、昨年度より25件増えている。内訳は緊急調査123件、学術調査９件である。調査件数が５年間連続して100件をこえている状況にある。

発掘調査の原因別は、住宅建設31件、道路建設・改良等22件、その他建物17件、圃場整備15件、その他開発11件、宅地造成８件、公園造成７件、学校４件、工場２件、区画整理２件、鉄道建設１件、河川１件、水道１件、自然崩壊１件の合計123件である。学術調査では昨年に引き続き県教育委員会が行った古代官衙・寺院跡詳細分布調査、山梨学院大学考古学研究会が行った縄文時代のクリスタルロードを解明する調査、さらに遺跡の保存整備のための調査など合計９件である。発掘調査の特徴の１つとして、県教育委員会が行った甲西バイパス建設に伴う宮沢中村遺跡の調査、昭和町教育委員会が区画整備で行ったかすみ堤遺跡などの調査に見られるように、近世の遺跡の発掘調査が本格的に実施されていることである。

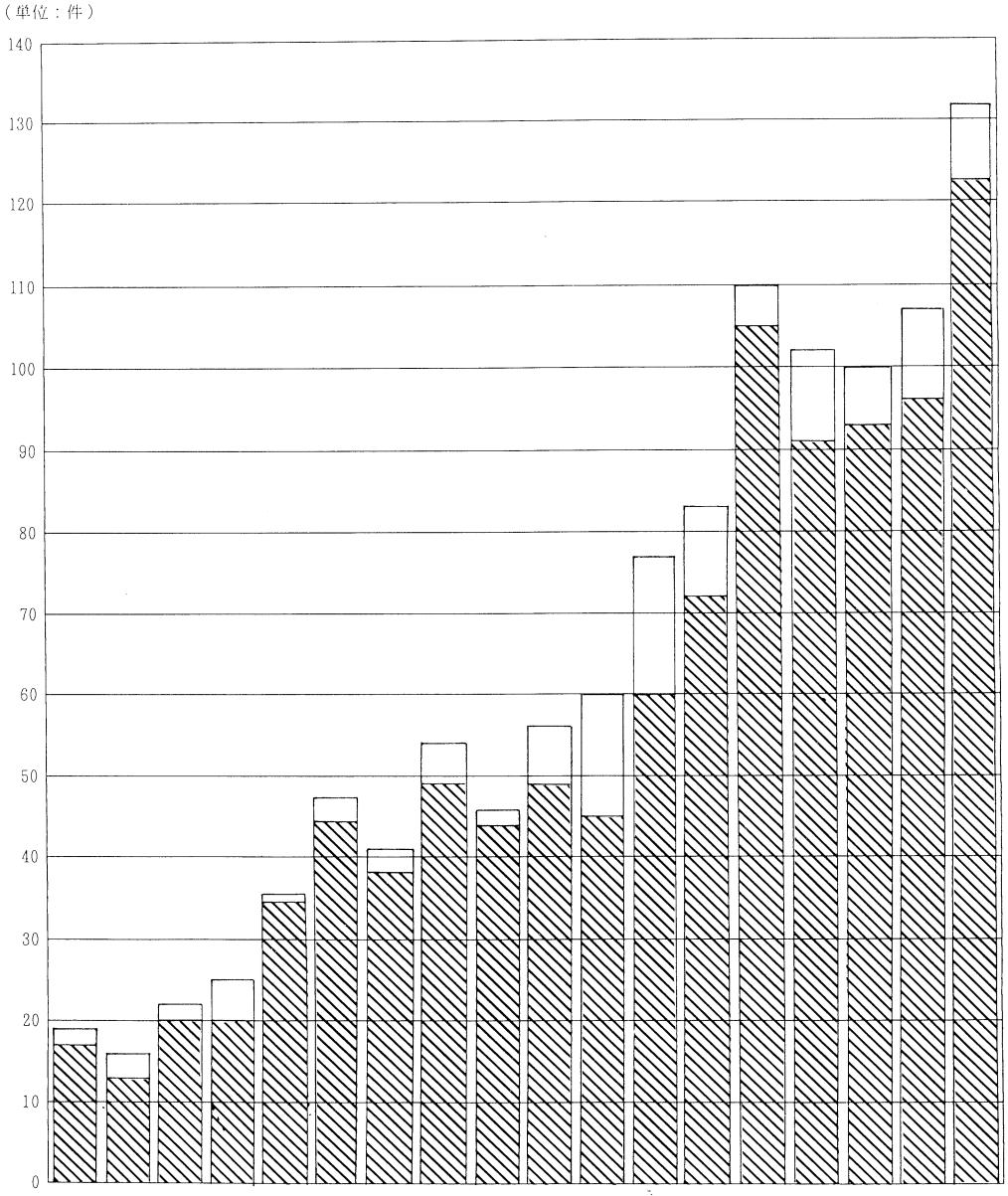
地域別は、甲府市内19件、韮崎市内１件、山梨市内７件、塩山市内４件、大月市内４件、都留市内３件、富士吉田市内１件、北巨摩郡内27件、中巨摩郡内11件、南巨摩郡内１件、東山梨郡内８件、東八代郡内40件、西八代郡内１件、北都留郡内５件となっており、今年度においても東八代郡と北巨摩郡とで、半分を占める結果となっている。市町村内で調査件数が多いのは、甲府市17件、一宮町11件、境川村９件となっているが、その他は４件、あるいは３件などが大半である。複数の件数は調査担当職員が１名である市町村では対応が厳しい状況にある。

遺跡の保存整備　遺跡の保存整備に関わる調査は、県教育委員会による甲府城、甲斐風土記の丘（円形周溝墓）、森林と水のプロムナード（経塚古墳）、三珠町教育委員会の大塚古墳、双葉町教育委員会の往生塚古墳、勝沼町教育委員会の勝沼氏館跡がある。また整備委員会で計画中が大泉村の谷戸城、大月市の岩殿城などがある。

調査体制　埋蔵文化財専任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）については、県が学術文化課２名、埋蔵文化財センター34名、考古博物館２名であり、市町村では甲府市４名、御坂町３名、大月市・富士吉田市・須玉町・八代町・一宮町に各２名、韮崎市・都留市・塩山市・山梨市・春日居町・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町・豊富村・三珠町・増穂町・櫛形町・甲西町・敷島町・竜王町・双葉町・小淵沢町・大泉村・長坂町・明野村・高根町・武川村・白州町・上野原町に各１名が配置され、合計80名となっており、64市町村のうち32市町村に配置されている。発掘調査の担当職員配置は、年々充実してきているが発掘件数の増加により、担当職員１人あたりの事業量が多くなっている傾向にある。このことから整理体制が不十分となり、報告書の刊行や出土遺物の活用が問題となっている。

発掘調査の成果　中道町宮ノ上遺跡の方形周溝墓の主体部から鉄剣、甲府市東畑遺跡から白鳳期の小金銅仏、一宮町経塚古墳は八角形墳、三珠町大塚古墳から短甲・六鈴鏡、昭和町かすみ堤の蛇籠、長坂町三井氏館跡内から主体部のある方形周溝墓、敷島町松ノ尾遺跡から平安期の小銅仏、甲西町宮沢中村遺跡から中世の網代護岸、大月市大月遺跡から縄文中期末から後期初頭の敷石住居群などがある。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移



	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
□学術調査	2	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9
▨緊急調査	17	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123
合　計	19	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132

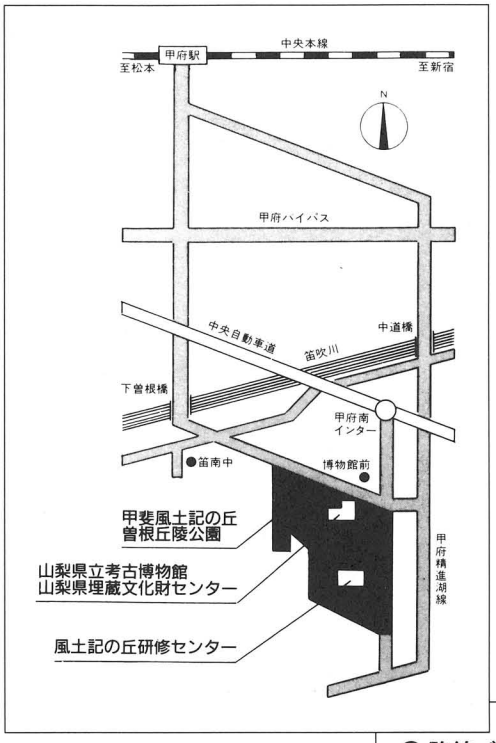
1994年度　発掘調査一覧表

No.	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	着手時期	終了時期	遺跡の時代	面積（㎡）
1	赤坂フソトパーク遺跡	中巨摩郡竜王町竜王新町2296	竜王町教育委員会	公園造成・工場	19940509	19941220	古墳・近世	5,876.00
2	金の尾遺跡	中巨摩郡敷島町大下条644－1、621－1	敷島町教育委員会	その他開発	19940400	19940500	縄文、弥生	1,615.00
3	甲府城跡	甲府市丸の内1－5	山梨県教育委員会	公園造成	19940411	19950331	近世	7,000.00
4	宮沢中村遺跡	中巨摩郡甲西町宮沢字東宮沢51－1外	山梨県教育委員会	道路	19940418	19941223	中世、近世	3,600.00
5	神東町遺跡	東山梨郡春日居町寺本133	春日居町教育委員会	その他建物	19940404	19940414	古墳～平安	64.00
6	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2196外	八代町教育委員会	公園造成	19940412	19940428	旧石器、縄文	70.00
7	十五所遺跡	中巨摩郡櫛形町十五所字村東175外	山梨県教育委員会	道路	19940418	19941222	古墳	12,800.00
8	村前東Ａ遺跡	中巨摩郡櫛形町十五所字村前東297外	山梨県教育委員会	道路	19940411	19941227	弥生、古墳、平安	20,000.00
9	西田遺跡	東八代郡一宮町竹原田字川原口丁1356外	山梨県教育委員会	その他開発	19940411	19940420	平安	6,000.00
10	大師東丹保遺跡（Ⅲ区、Ⅳ区）	中巨摩郡甲西町清水字川原田227－1外	山梨県教育委員会	道路	19940418	19941226	弥生、古墳、中世	7,500.00
11	牧野遺跡	北都留郡上野原町四方津322～325、384	上野原町教育委員会	学校	19940425	19940730	縄文、平安	1,200.00
12	加茂西遺跡	東山梨郡春日居町加茂164－1、165、170	春日居町教育委員会	その他建物	19940415	19940514	古墳～平安	265.00
13	金山遺跡	東八代郡境川村大字小黒坂字間ノ田1638－1	境川村教育委員会	住宅	19940415	19940420	縄文、古墳	250.00
14	北中原遺跡	東八代郡一宮町塩田字北中原596－1外	山梨県教育委員会	住宅	19940414	19941227	縄文、平安	5,055.00
15	経塚古墳	東八代郡一宮町国分経塚1133	山梨県教育委員会	公園造成	19940420	19940731	古墳	600.00
16	中谷遺跡	都留市小形山瀬木2335－1外	山梨県教育委員会	鉄道	19940418	19950331	縄文	2,500.00
17	一の出遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原字一の出666－1	櫛形町教育委員会	区画整理	19940425	19940630	平安	1,600.00
18	安田氏館跡	山梨市小原西字八王子649－1、649－3	山梨市教育委員会	その他開発	19940400	19940000	中世	170,596.00
19	日影田遺跡	北巨摩郡高根町下黒沢2301外	山梨県教育委員会	住宅	19940427	19950331	縄文、中世、近世	3,000.00
20	後畑遺跡	東八代郡御坂町夏目原1119	御坂町教育委員会	その他建物	19940510	19940512	古墳～平安	1,102.00
21	馬込（西之割）遺跡	東八代郡一宮町中尾1646－1	一宮町教育委員会	自然崩壊	19940418	19940428	中世	10.00
22	鞍掛・清水遺跡	東八代郡一宮町末木722	一宮町教育委員会	その他開発	19940426	19940831	古墳～平安	2,900
23	金田本都塚条里遺跡	東八代郡一宮町金田字三宮神町688外	一宮町教育委員会	道路	19940312	19941231	縄文～近世	2,100.00
24	狐原遺跡	東八代郡一宮町竹原田字川原町	山梨県教育委員会	公園造成	19940418	19941130	奈良、平安	8,000.00
25	西之久保遺跡	北巨摩郡白州町横手字西之久保2407外	白州町教育委員会	農業関連	19940601	19940930	縄文～古墳、平安、中世	8,000.00
26	上野原遺跡	東八代郡中道町右左口字上ノ原756－3外	山梨県教育委員会	道路	19940509	19950331	縄文、古墳	3,200.00
27	清水遺跡	東八代郡中道町下向山字米倉山3911－6外	山梨県教育委員会	その他建物	19940418	19940531	旧石器～古墳、近世	2,000.00
28	かすみ堤	中巨摩郡昭和町河西地内	昭和町教育委員会	区画整理	19940518	19941220	近世	7,200.00
29	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1565－1	明野村教育委員会	農業関連	19940501	19940630	縄文	1,368.00
30	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1560－1	明野村教育委員会	農業関連	19940801	19940831	縄文	753.00
31	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1052	明野村教育委員会	農業関連	19940901	19940930	縄文	720.00
32	桑森遺跡	北巨摩郡明野村上手4836－2	明野村教育委員会	農業関連	19941001	19941130	縄文、平安	751.00

No.	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	着手時期	終了時期	遺跡の時代	面積（㎡）
34	腰巻遺跡	北巨摩郡須玉町藤田787外	須玉町教育委員会	その他建物	19940613	19940831	古墳、平安	4,000.00
35	坂井南遺跡	韮崎市藤井町北下条大原2244	韮崎市教育委員会	住宅造成	19940414	19950331	古墳	500.00
36	立石遺跡	東八代郡境川村大字小黒坂	境川村教育委員会	住宅	19940601	19940607	縄文	499.00
37	立石遺跡	東八代郡境川村小黒坂99－3	境川村教育委員会	住宅	19940601	19940607	縄文	500.00
38	連方屋敷	山梨市三ケ所795－2	山梨市教育委員会	住宅	19940610	19940630	中世	452.00
39	薊在家遺跡	東八代郡境川村大字藤垈4806－1	境川村教育委員会	住宅	19940601	19940607	縄文	591.00
40	社口遺跡	北巨摩郡高根町村山北割70－1外	高根町教育委員会	道路	19940701	19950331	縄文、平安	5,400.00
41	前原遺跡	北巨摩郡高根町東井出地内	高根町教育委員会	農業関連	19940701	19950331	縄文	5,000.00
42	中牧城址	東山梨郡牧丘町城古寺714－1	牧丘町教育委員会	住宅	19940722	19940731	中世	329.28
43	平野遺跡	南巨摩郡増穂町最勝寺奥平野2791－1外	増穂町教育委員会	道路	19940701	19940930	古墳	1,700.00
44	狐原Ⅰ、Ⅱ遺跡	北都留郡上野原町上野原15,2外	上野原町教育委員会	道路、区画整理	19940720	19950331	縄文～古墳	17,737.00
45	岩殿城跡	大月市賑岡町大字強瀬字西山番81－1	大月市教育委員会	公園造成、その他建物	19940711	19940910	中世	637.60
46	石原田遺跡	北巨摩郡長坂町大八田83外	長坂町教育委員会	農業関連	19940701	19950331	平安	1,000.00
47	境原遺跡	北巨摩郡長坂町大八田900外	長坂町教育委員会	農業関連	19940701	19950331	縄文、中世	2,000.00
48	枡坪遺跡	北巨摩郡長坂町大八田593外	長坂町教育委員会	農業関連	19940701	19950331	古墳	1,000.00
49	四ッ石遺跡	中巨摩郡竜王町竜王644－4外	竜王町教育委員会	学術研究	19940725	19940815	近世	540,994.00
50	放光寺遺跡	塩山市藤木2443	塩山市教育委員会	河川	19940725	19940810	中世	50.00
51	三ノ側遺跡	都留市田原2－855－3	都留市教育委員会	住宅	19940720	19941201	奈良、平安	645.00
52	間の田遺跡	東八代郡境川村黒板74	境川村教育委員会	住宅	19940701	19940831	縄文	411.00
53	二子塚古墳	東八代郡境川村字大蔵561	境川村教育委員会	住宅	19940701	19940831	縄文	504.00
54	宮の前遺跡	東八代郡境川村寺尾字宮の前4036	境川村教育委員会	住宅	19940701	0831	縄文	776.00
55	蝙蝠塚（近隣地）	東八代郡御坂町下野原字木瓜原337－1外	御坂町教育委員会	その他開発	19940808	19940815	古墳	4,224.00
56	中尾条里亀沢遺跡	東八代郡一宮町北都塚字亀沢288－2、287－1	一宮町教育委員会	工場	19940801	19940909	弥生～近世	450.00
57	堀ノ内遺跡	東山梨郡牧丘町窪平1326－3外	牧丘町教育委員会	道路	19940921	19950331	縄文	3,051.00
58	大堀北遺跡	山梨市小原東字原堰785－1	山梨市教育委員会	住宅	19940809	19940800	奈良、平安	428.18
59	立石遺跡	東八代郡境川村小黒坂99－3	境川村教育委員会	住宅	19940701	19940831	縄文	500.00
60	旧菅原小学校遺跡	北巨摩郡白州町白須	白州町教育委員会	学校	19940822	19940831	縄文、平安、中世	50.00
61	甲斐国分尼寺遺跡	東八代郡一宮町東原658、659	一宮町教育委員会	学術研究	19940817	19940930	奈良、平安	700.00
62	酒呑場遺跡	北巨摩郡長坂町長坂上条621－2	山梨県教育委員会	その他建物	19940901	19950331	縄文、平安	1,210.00
63	小倉遺跡	都留市四日市場字小倉	都留市教育委員会	その他建物	19940820	19941201	平安、中世	8,570.21
64	鐘山堰遺跡	富士吉田市上吉田2288	富士吉田市教育委員会	その他開発	19940710	19940711	中世、近世	4.00
65	関山遺跡	北都留郡上野原町上野原字関山823－4	上野原町教育委員会	その他建物	19940901	19940914	縄文	139.64
66	雲林遺跡	山梨市下石森中河原323－2、326－1、329－1	山梨市教育委員会	住宅	19940912	19940900	古墳、平安	1,605.00
67	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2256	八代町教育委員会	道路	19940912	19941130	旧石器、縄文、古墳	770.00

No.	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	着手時期	終了時期	遺跡の時代	面積（㎡）
68	向原遺跡	北巨摩郡武川村黒沢字向原1762－３外	武川村教育委員会	その他開発	19941003	19941031	縄文	75.00
69	大塚古墳	西八代郡三珠町大塚4953	三珠町教育委員会	遺跡整備	19941003	19950331	古墳	119.00
70	野田尻Ｉ遺跡	北都留郡上野原町野田尻378、379、380－１、380－２	上野原町教育委員会	住宅	19940912	19950331	縄文、弥生、平安、近世	3,138.00
71	三ケ所遺跡	山梨市上之割字八王子380、381外	山梨県教育委員会	宅地造成	19940919	19950331	平安	18,000.00
72	西田町遺跡	東八代郡一宮町東原字西田町11外	一宮町教育委員会	その他建物、その他開発	19940919	19941231	奈良～近世	23,000.00
73	大月遺跡	大月市大月２－11－20	山梨県教育委員会	学校	19940914	19950331	縄文、奈良、平安	3,200.00
74	田代遺跡	東八代郡御坂町尾山32、33、34、38外	御坂町教育委員会	その他開発	19940927	19941014	縄文、平安	6,406.00
75	千米寺古墳群	東八代郡一宮町石1787－９	一宮町教育委員会	水道	19940920	19940930	古墳	300.00
76	桜畑遺跡	東八代郡一宮町東原274－２	一宮町教育委員会	その他建物	19940922	19941003	奈良～近世	400.00
77	矢倉遺跡	東八代郡東原字矢倉780－２、781－２	一宮町教育委員会	その他建物	19941003	19941028	古墳～近世	830.00
78	塩部遺跡	甲府市塩部１－２－１	山梨県教育委員会	学校	19941005	19941026	弥生～平安	510.00
79	浅利氏館跡	東八代郡豊富村浅利2213、2219、2221－１外	豊富村教育委員会	宅地造成	19941003	19950331	中世	100.00
80	高部字山平遺跡	東八代郡豊富村高部1402－１、1442－１外	豊富村教育委員会	その他開発	19941003	19941222	縄文～古墳	200.00
81	大椚Ｉ遺跡	北都留郡上野原町八ッ沢字降屋戸2229外	大椚遺跡郡発掘調査団	工場	19941011	19941230	縄文	4,000.00
82	松ノ尾遺跡	中巨摩郡敷島町大下条1088－３外	敷島町教育委員会	道路	19941019	19950320	平安	8.800.00
83	往生塚古墳	北巨摩郡双葉町竜地303	双葉町教育委員会	宅地造成	19941128	19950110	古墳	207.00
84	東後屋敷遺跡	山梨市東後屋敷字天神322	山梨市教育委員会	宅地造成	19941000	19941115	縄文	300.00
85	上の平遺跡	北巨摩郡須玉町増富区小尾字御門、上の平4538、4545	山梨学院大学考古学研究会	学術研究	19941029	19941107	縄文	40.00
86	大柴遺跡	北巨摩郡須玉町増富地区小尾字東小尾、大柴5551、5576外	山梨学院大学考古学研究会	学術研究	19941029	19941107	縄文	40.00
87	桑戸遺跡	東山梨郡春日居町桑戸487－１	春日居町教育委員会	道路	19941100	19941200	古墳～平安	30.00
88	神東町遺跡	東山梨郡春日居町寺本222－１、222－６	春日居町教育委員会	その他建物	19941000	19941101	古墳～平安	70.00
89	油川第４遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8240－63外	大泉村教育委員会	道路	19941011	19941031	縄文	200.00
90	甲斐国分尼寺遺跡	東八代郡一宮町東原字後地625－２	一宮町教育委員会	その他開発	19941110	19941125	奈良～近世	120.00
91	梅ノ木（Ｂ）（横森東下）遺跡	北巨摩郡高根町箕輪地内	山梨県教育委員会	道路	19941110	19941124	縄文、奈良、平安	40,000.00
92	円楽寺遺跡	東八代郡中道町右左口字七覚4094－２	山梨県教育委員会	学術研究	19941110	19941115	奈良、平安	15.00
93	本村耕地１遺跡	北巨摩郡白州町横手久保頭2542－２、2543－１	白州町教育委員会	農業関連	19941201	19941202	縄文、平安、中世	100.00
94	桜井２遺跡	北巨摩郡白州町白須字桜井2641外	白州町教育委員会	農業関連	19941128	19941130	縄文	100.00
95	於曽屋敷	塩山市下於曽526	塩山市教育委員会	宅地造成	19941114	19941130	中世	1,569.57
96	横畑遺跡	東八代郡御坂町成田字南畑632－１、630－１	山梨県教育委員会	学術研究	19941121	19941202	古墳～平安	50.00
97	滝下遺跡	北巨摩郡須玉町藤田字滝下	須玉町教育委員会	宅地造成	19941201	19950331	縄文、平安	14,000.00
98	史跡　加藤光泰の墓	甲府市善光寺３－36－１	甲府市教育委員会	遺跡整備	19941100	19941200	中世	10.00
99	献上地遺跡	大月市大月２丁目字献上地523－３外	大月市教育委員会	道路	19940926	19941226	平安	2,052.06
100	前田遺跡	北巨摩郡大泉村西井出2861外	大泉村教育委員会	農業関連	19941114	19941202	縄文、平安	100.00
101	清水遺跡	北巨摩郡大泉村西井出556外	大泉村教育委員会	農業関連	19941114	19941202	縄文	100.00

No.	遺跡の名称	所在地	調査主体者	調査の目的	着手時期	終了時期	遺跡の時代	面積（㎡）
102	寺所第２遺跡	北巨摩郡大泉村西井出216外	大泉村教育委員会	農業関連	19941114	19941202	縄文、中世	100.00
103	大堀北遺跡	山梨市小原東字原堰830－１	山梨市教育委員会	住宅	19941206		奈良、平安	892.47
104	田代遺跡	東八代郡御坂町尾山38、41－２外	御坂町教育委員会	その他開発	19941221	19950301	縄文、平安	2,695.00
105	保雲寺橋遺跡	東山梨郡春日居町鎮目下野田、平林、関東林地内	春日居町教育委員会	その他開発	19951219	19960300	古墳～平安	550.00
106	十組屋敷	塩山市三日市場3211－３外	塩山市教育委員会	その他建物	19941200	19950100	近世	13,000.00
107	甘草屋敷	塩山市上於曽1651－８	塩山市教育委員会	遺跡整備	19941200	19950100	近世	144.00
108	三枝土佐守館跡	東八代郡豊富村木原1473－３外	豊富村教育委員会	住宅	19950109	19950331	中世	100.00
109	油田遺跡	甲府市蓬沢１－123－１	甲府市教育委員会	住宅	19950201	19950210	平安	223.51
110	前田遺跡	甲府市池田285－１、292－７	甲府市教育委員会	住宅	19941107	19941110	縄文、平安	801.00
111	緑が丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘２－135－５	甲府市教育委員会	住宅	19940928	19941012	縄文～平安	248.00
112	朝気遺跡	甲府市朝気３－81	甲府市教育委員会	住宅	19941212	19941216	縄文～古墳、平安、中世	901.00
113	宮の脇遺跡	甲府市善光寺２－2789－１	甲府市教育委員会	その他建物	19941009	19941009	縄文、平安	591.00
114	北田遺跡	甲府市川田町字亀田114－３、114－９	甲府市教育委員会	住宅	19941111	19941114	古墳～平安	261.00
115	本郷Ｃ遺跡	甲府市善光寺１－1909－１	甲府市教育委員会	その他建物	19940906	19940909	古墳～中世	627.00
116	大坪遺跡	甲府市横根町字左右手305	甲府市教育委員会	住宅	19941219	19940000	古墳～平安	432.00
117	緑が丘２丁目遺跡	甲府市和田町水口728－１	甲府市教育委員会	その他建物	19941121	19941207	縄文～平安	975.00
118	塚腰遺跡	甲府市国玉町899	甲府市教育委員会	道路	19940825	19940928	弥生～平安	884.00
119	緑が丘２丁目遺跡	甲府市緑が丘２－2393－１外	甲府市教育委員会	住宅	19941206	19950718	古墳	1,548.15
120	緑が丘２丁目遺跡	甲府市和田町710－１、712－１外	甲府市教育委員会	住宅	19941108	19941115	縄文～平安	1,080.00
121	緑が丘２丁目遺跡	甲府市緑が丘２－893－１外	甲府市教育委員会	宅地造成	19941017	19941024	古墳～平安	180.25
122	堀の内遺跡	大月市富浜町字堀之内3422、3425、3428外	大月市教育委員会	道路	19950201	19950228	縄文、平安	671.62
123	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂514－１外	境川村教育委員会	道路	19950206	19950325	縄文	2,650.00
124	二之宮遺跡	東八代郡御坂町二之宮2735－１	御坂町教育委員会	住宅	19950213	19950224	古墳～平安	150.00
125	北・向田遺跡	東八代郡八代町北字鏡田3203外	八代町教育委員会	道路	19950220	19950303	弥生	37.50
126	大坪遺跡	甲府市横根町608－１	甲府市教育委員会	住宅	19940930	19941012	奈良、平安	160.38
127	朝気遺跡	甲府市朝気３－71－１～４	甲府市教育委員会	住宅	19941101	19941107	縄文～中世	734.63
128	緑ケ丘遺跡	甲府市緑が丘２－３－22	甲府市教育委員会	住宅	19950322	19950331	古墳	607.61
129	笛吹権三郎墓地	東山梨郡春日居町小松915	春日居町教育委員会	道路	19950306	19950311	中世、近代	6.00
130	俵石遺跡	北巨摩郡明野村浅尾3544	明野村教育委員会	農業関連	19950315	19950331		1,714.00
131	松の木遺跡	中巨摩郡昭和町西条4162野２	昭和町教育委員会	道路	19950000	19950000	中世	40.00
132	桜畑遺跡	東八代郡一宮町東原字桜畑265－３	一宮町教育委員会	その他建物、その他開発	19950323	19950331	奈良～近世	100.00



● 路線バスのご利用

貢川(くがわ)……(甲府駅)……右左口(うばぐち)(中道橋経由) 博物館で下車

竜王……(甲府駅)……豊富(中道橋経由) 博物館で下車

● 高速バスのご利用(2時間)

新宿駅西口……甲府南インター下車・徒歩10分

年　報 11

印刷日　平成7年3月25日

発行日　平成7年3月31日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター

山梨県東八代郡中道町下曽根923

TEL　0552－66－3881

FAX　0552－66－3882

印刷所　株式会社　少国民社

TEL　0552－26－2125